



# Minolta NEW SR-7

使用說明書

J



お買いあげありがとうございます

ミノルタカメラは常に新しいアイデアによって独創性のある製品を開発してまいりました。特に一眼レフミノルタ SR は1958年発売以来、多年の経験を背景に高度な技術によって世界のトップレベルを進んでまいりました。新発売の NEW SR は更に進歩した新しい技術開発の成果として人間工学的に追究された優れた操作性能をもっています

ご使用になる前まずこの使用説明書をよくお読みくださってカメラの特長を充分にご活用ください  
この使用説明書は最初に撮影の手順を述べてあります

すぐ写したい方もこの項まではごらんになってから撮影して下さい

使用説明書は F1.4 レンズ付となっておりますが F1.8 レンズ付をお求めの方も使用方法は同じです

1.	NEW SR-7 の特長	3	2.	ピント合わせ	31
2.	ロッドロールレンズ	7	☆赤外撮影のピント	32	
3.	カメラの構え方	9	☆フィルム面の位置	33	
4.	各部の名称	11	3.	ファインダーと構図	33
5.	ご使用になる前に	13	17.	被写界深度について	35
1.	水銀電池の入れ方	13	☆深度の性質とその利用	35	
2.	バッテリーチェッカー	14	☆レンズの被写界深度目盛の見方	35	
6.	撮影の手順	15	☆F 1.4/58 F1.8/55 深度表	37	
7.	フィルムの入れ方	17	18.	ミラーロックボタンの扱い方	39
8.	フィルム感度表示板	19	19.	セルフタイマーの使い方	40
9.	巻上げレバーの扱い方	20	20.	フラッシュ撮影について	41
10.	シャッター速度はこうして	21	21.	撮影が終ったとき	43
11.	絞りの合わせ方	22	22.	レンズ交換はこうして	44
12.	絞りボタンの使い方	23	23.	カメラの保存と手入れ	45
13.	SR の完全自動絞り方式	23	24.	SR 用交換レンズ	47
14.	SR-7メーターの使い方	25	25.	SR 専用アクセサリー	51
15.	露出の測り方	29	26.	品質保証	62
16.	カメラを構えて写すまで	30	27.	完ぺきなアフターサービス	62
1.	カメラの構え方	30			





### 1. 最高に扱い易い

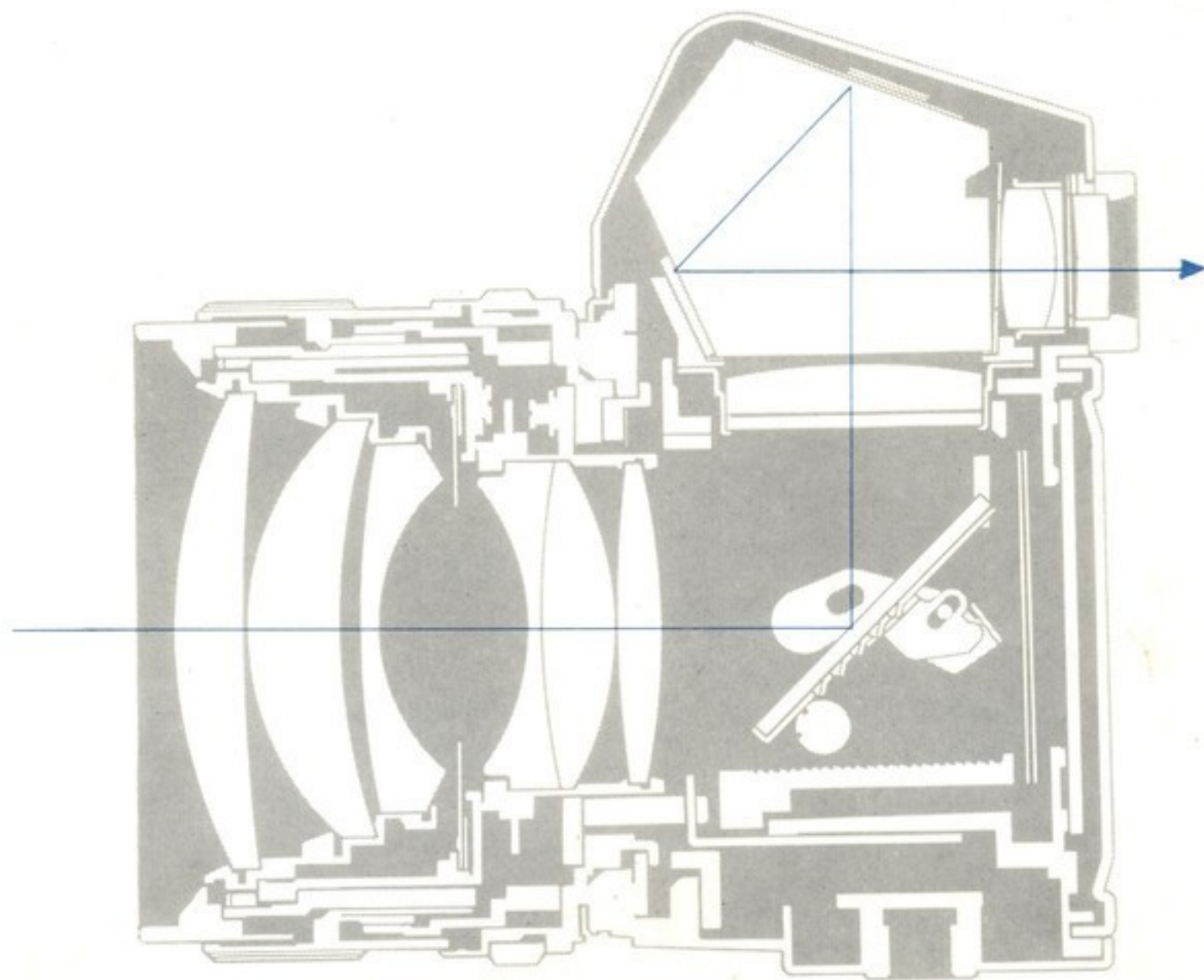
ミノルタSRは一眼レフカメラとして長い歴史と伝統をもっており、熟練した技術と新らしい生産方式によってつくられています。NEW SRでは特に全体のまとまりが優れており極度に軽い重量とシャッター音の低下に成功、更に外観美をそこなうことなくコンパクト化されたデザインをそなえています。その他巻きあげレバーの形状、見易く扱い易いシャッターダイヤル等々すべて人間工学的な追究から最高に扱い易いカメラとなっています

### 2. 正確なファインダー

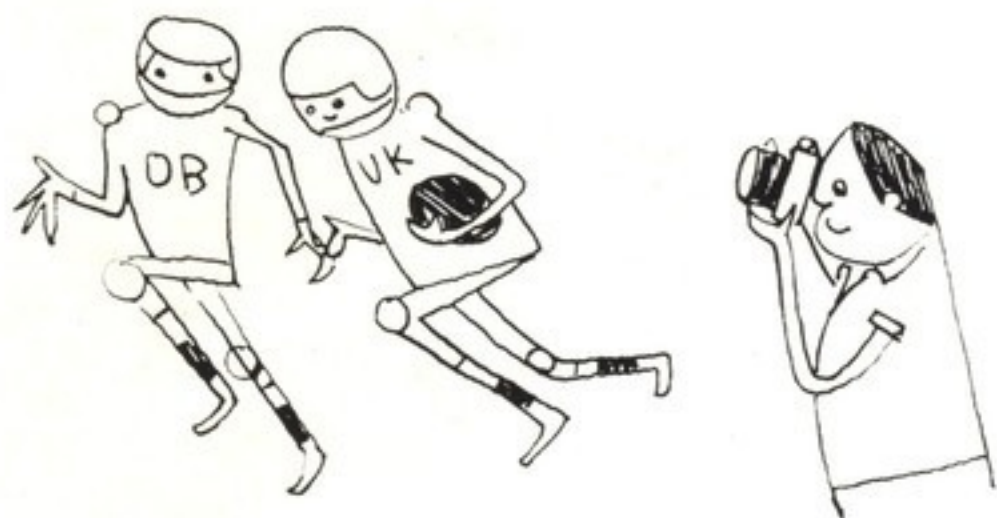
SRはペンタプリズム式一眼レフでファインダーにうつる自然な映像、背景のボケ具合をも含めてファインダーで見た通りが正確に撮影されます

- a. 人物撮影や接写・複写などトリミングのできぬカラースライドの撮影等にも思いきって視野一ぱいの構図が決められます
- b. 特に交換レンズを用いたときの望遠撮影、特殊分野の顕微鏡写真等では他のカメラの遠く及ばない強味を発揮します









### 3. 迅速にピント合わせができます

NEWSRにはピントが迅速に合わせられるファインマイクロプリズムをそなえています。ピントが合わぬとボケが強調され、精密なピント合わせが素速やくできます

### 4. 超広角レンズが使えます

NEWSRにはミラーのロックボタンをそなえています。フィルム一コマ分のロスをすることなくミラーを跳ねあげることにより超広角レンズ( $f=21\text{mm}$ )や連続撮影時の複写、高倍率顕微鏡写真の撮影に有効に利用できます



### 5. 高性能 CdS メーターを内蔵

高性能なCdSメーターをコンパクトに内蔵しています。シャッターダイヤルと連動しておりメーターの測光範囲が広く受光角が狭いのが特長で測定結果が正確であり、又一操作で適正露出のえられるよう扱い易くつくられています

★低輝度切替ボタンがレンズ鏡胴の側面にありカメラの操作特性上から考えて特に扱い易さをモットーに配置しています  
くわしい操作方法については P-27, 28 をご参照下さい

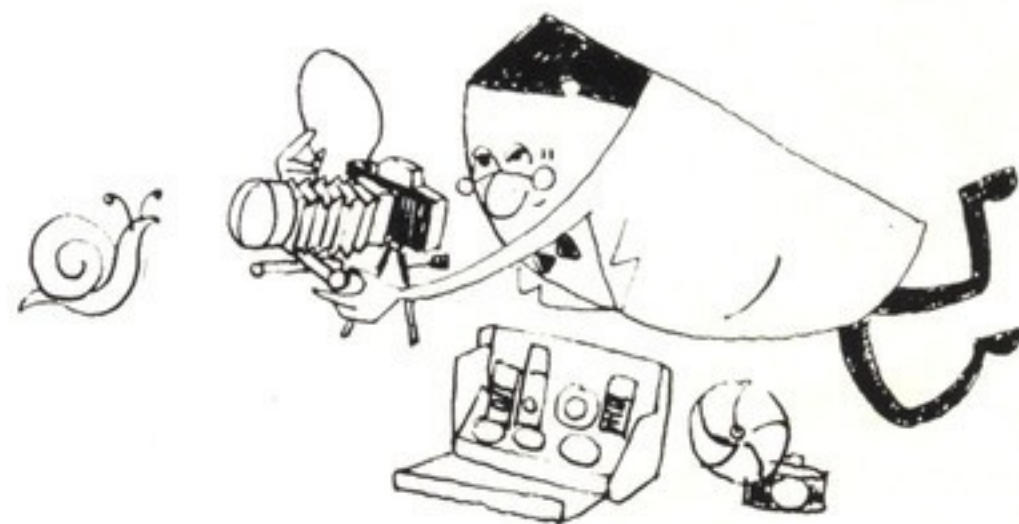




#### 6. 優れたロッドコールレンズが使えます

標準レンズをはじめ21mmから1000mmまでレンズの総合性能が優れた各種のロッドコールレンズを豊富に用意しています

☆特にSRマウントは発売以来7年間共通のもので独自のバヨネット方式によって迅速確実にレンズ交換が可能です



#### 7. アクセサリーが完備しています

SRの真価と万能性は豊富なアクセサリーの完備によってはじめて発揮されます

後述のような豊富なアクセサリーの活用によってカメラの機能が拡大し一般撮影は勿論、医学、科学、工業、教育の広い分野に十分な成果を望むことができます

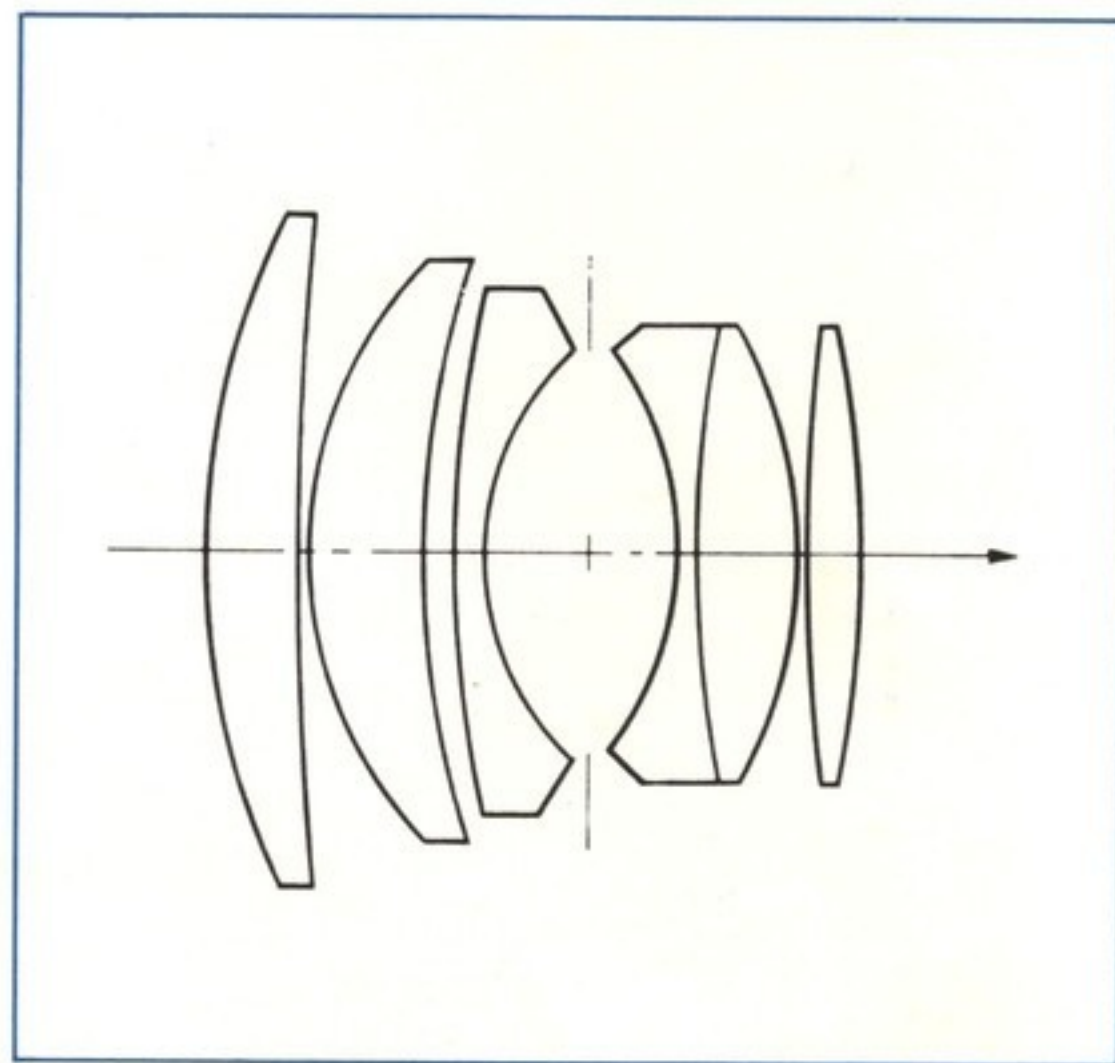


## 優れた品質のロッコールレンズ

NEW SR-7 には標準レンズ F1.8/55 mm の他  
大口径レンズの F 1.4/58mm を用意しています  
交換レンズには  $f = 21\text{mm}$  の超広角レンズから  $f$   
 $= 1000\text{mm}$  の超望遠レンズまであり、ズームレン  
ズも含めて豊富な交換レンズ群を取り揃えていま  
す、この豊富なロッコールレンズは各々の使用目  
的によって適切なレンズを自由に選出していたゞ  
くことにより十分な成果を挙げていたゞけます

ご承知のようにロッコールレンズは格調高い品  
質によって全世界で愛用されています。これは当  
社のレンズが30有余年の永い経験と新らしい研究  
が一体となって努力した結果の成果です。ロッコ  
ールレンズには撮影作品の評価と平行して、レン  
ズの総合性能がよくわかるレスポンスファンクシ  
ョンの測定、結像性能を検討するためのスポット  
ダイアグラム等の新しい手法が用いられています

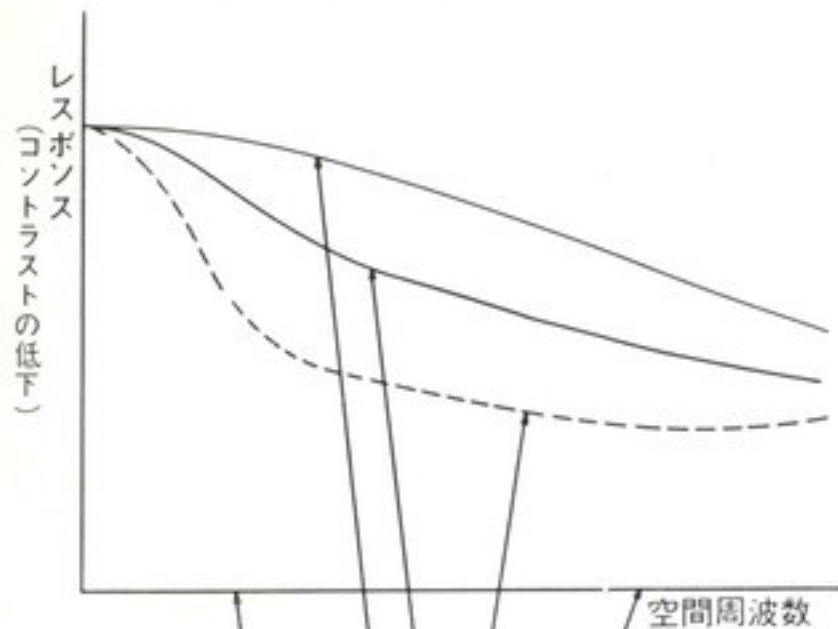
ロッコールレンズはこれらの新らしい技術開発



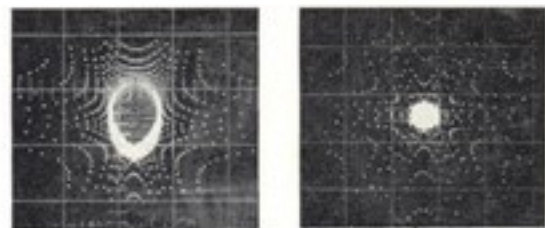
自社製光学ガラスによって、シャープさの中にも  
バックのボケ味がよく、独特のアクロマチックコ  
ーティングなどによってカラーバランスを良くす  
る特性をそなえています



レスポンス函数

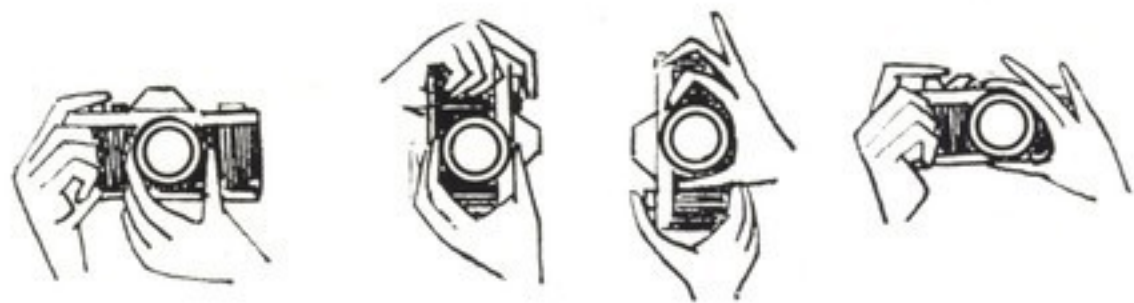


スポットダイヤグラム





## カメラはこうして構えます



シャープな写真は上手なカメラの保持方法から生まれます。カメラブレは結果の悪い写真をつくります。フィルムを入れる前にカメラの構え方を練習して下さい

1. 横位置での撮影は両手でしっかりカメラを保持できるのでもっとも安定した方法です。カメラが動かぬようしっかりと顔にあてシャッターボタンを静かに押してください

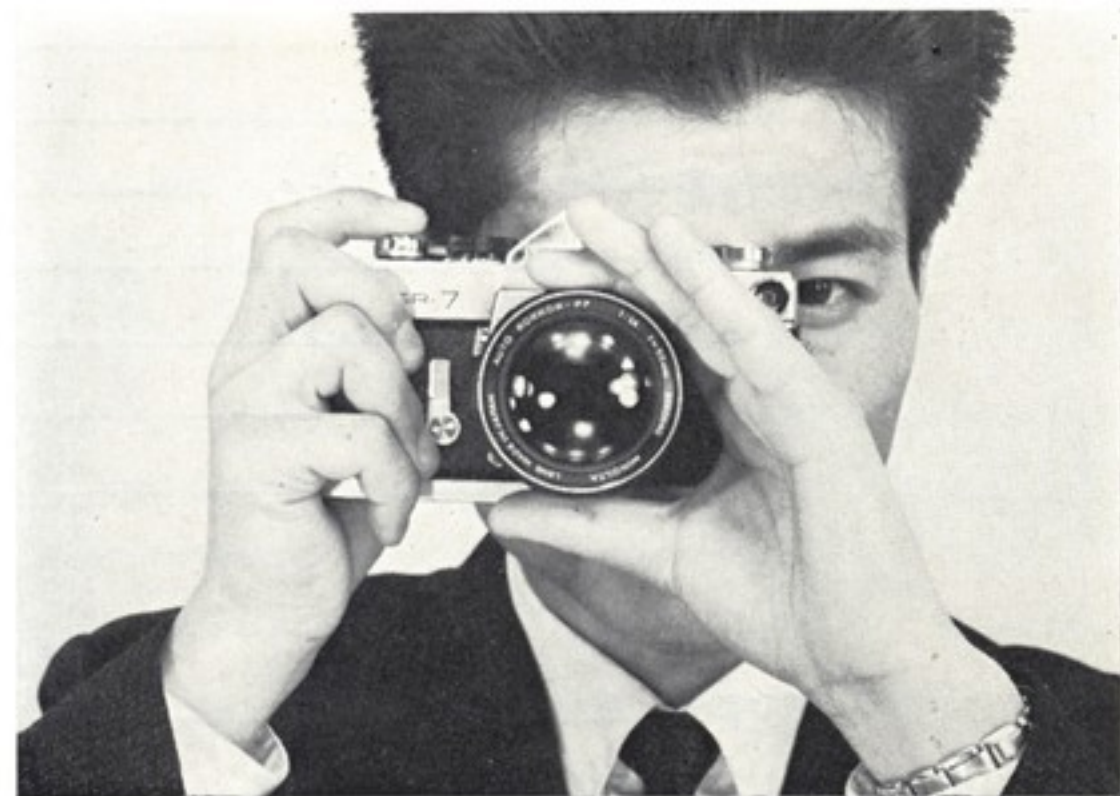






2. たて位置での撮影はシャッターボタンを親指で押すときと人差指で押すときの二方法があります。あなたの扱い易い方法をおえらび下さい

☆レバー巻上げ式のカメラでは横位置でも縦位置でもファインダーを右の目でみると巻上げレバーが顔につかえず便利です



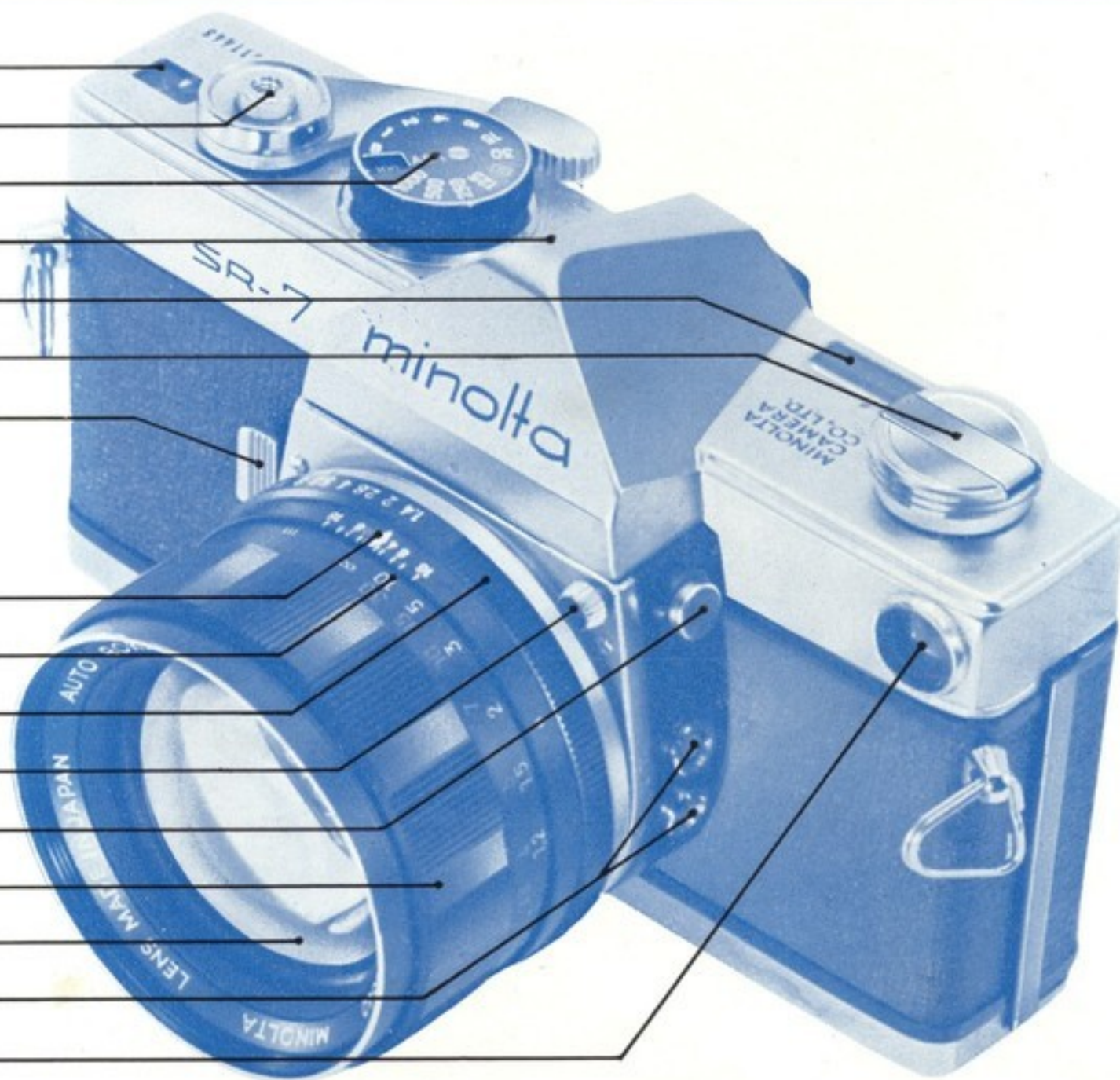
3. 左手でレンズを保持しながらカメラを支えて右手の人差指でシャッターを切る方法もよく用いられます。この方法はピント合わせが迅速にでき、すばやくシャッターが切れる特長があります。一度この方法も試みて下さい



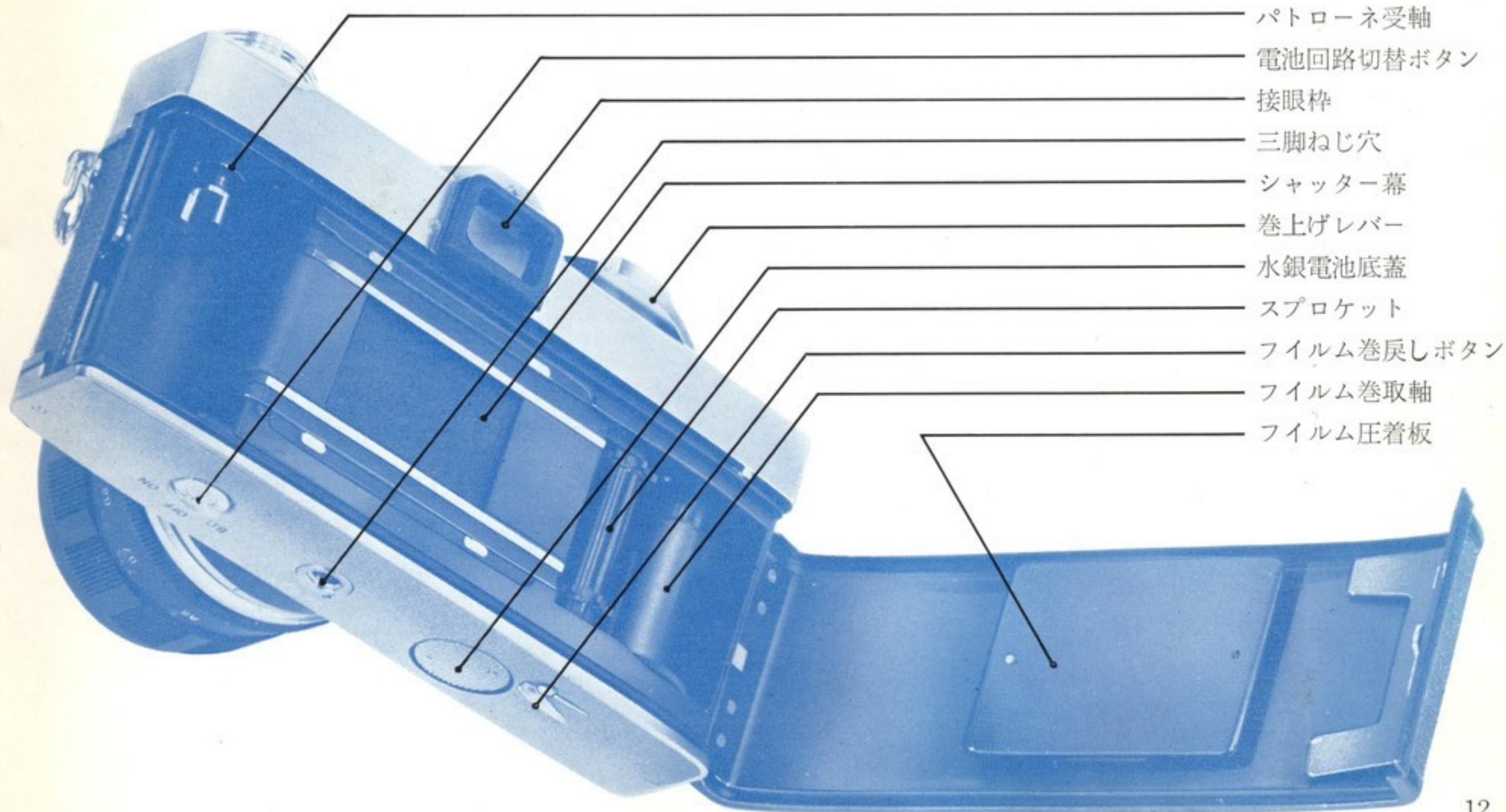
## 各部の名称

- フィルムカウンター
- シャッターボタン
- シャッター速度兼フィルム感度ダイヤル
- ペンタ・ダハプリズム
- 露出計指示窓
- フィルム巻戻し兼裏蓋開閉ノブ
- セルフタイマーレバー

- 被写界深度目盛
- 距離目盛
- 絞りリング
- レンズ交換用ボタン
- 低輝度切替ボタン
- 焦点調節リング
- 標準レンズ
- シンクロナルミナル
- 露出計受光窓

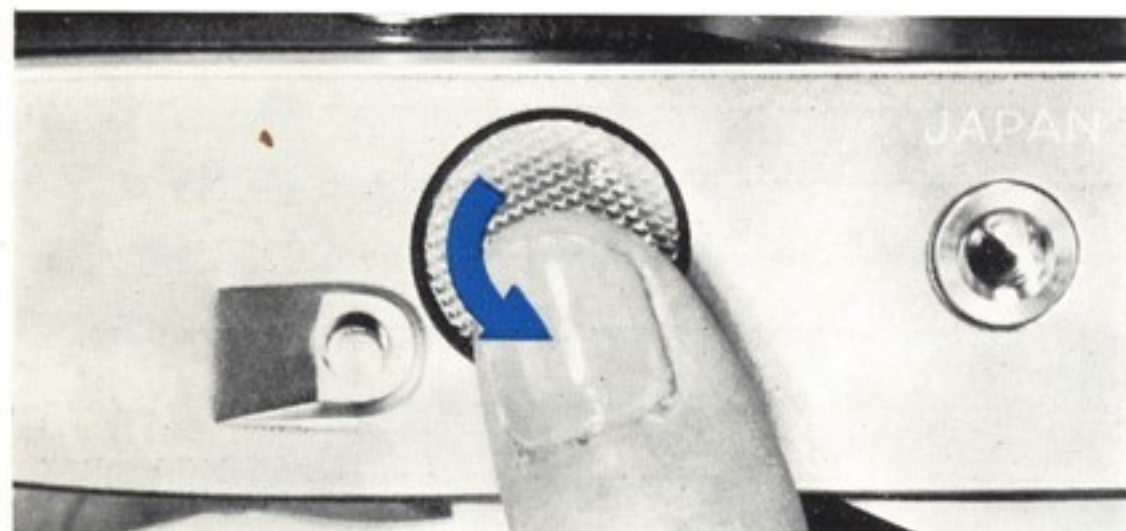








## ご使用になる前に

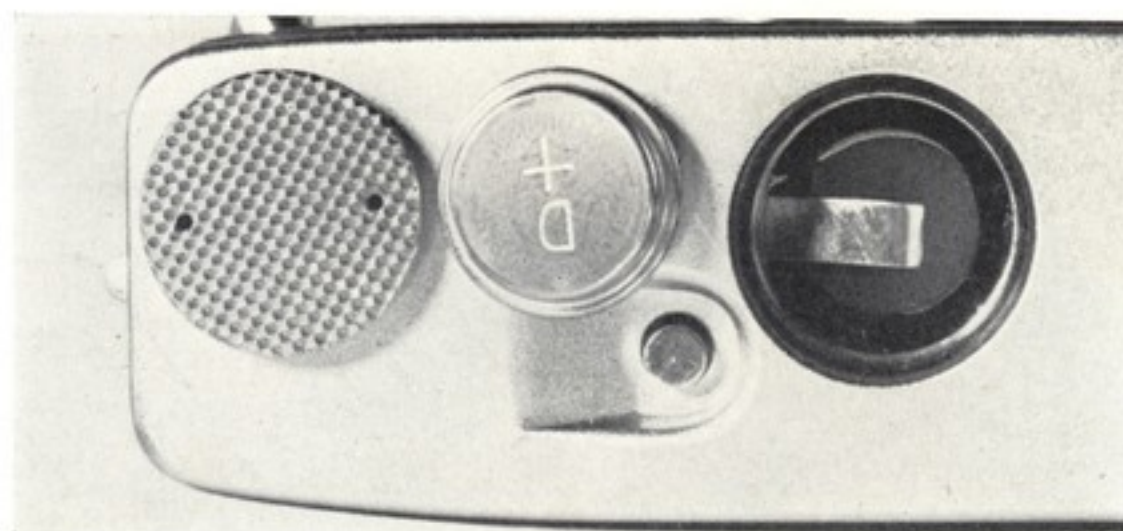


### 1. 水銀電池を入れます

別に同封の水銀電池を電池室に入れてください  
電池を入れないと露出計が作動しません

- カメラ底部の水銀電池底蓋を反時計方向に回して蓋を外します
- 水銀電池の+側を蓋の+側と合うようにして（蓋の図のように）入れ蓋をねじこみます
- 底部の水銀電池回路切替ボタンをONにします

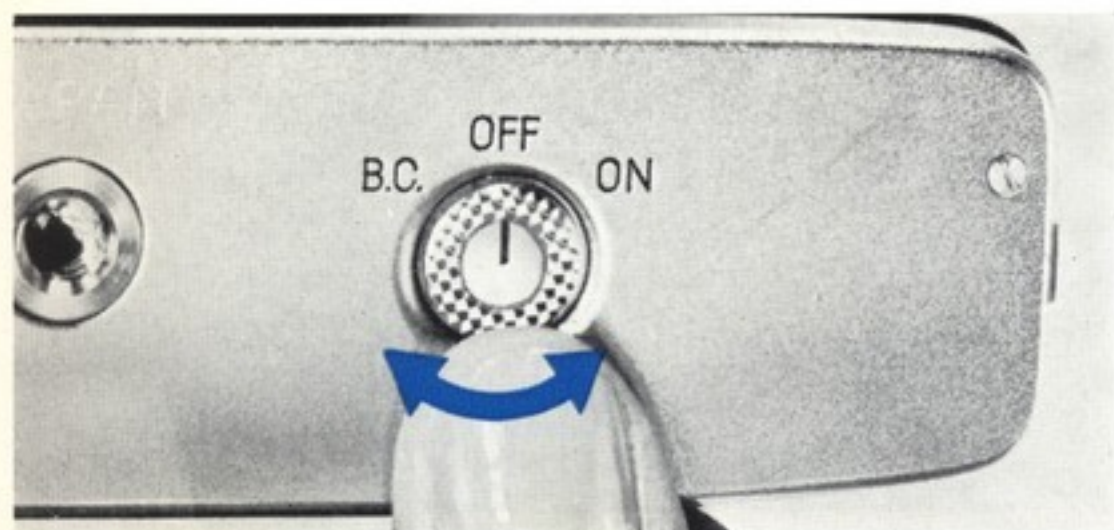
\*水銀電池を入れるとき電池の極（+-）を間違えないようにしてください



\*水銀電池はナショナルMD型、東芝TH-MC型  
が使えるアメリカのマロリーRM 625、エバレ  
ディーE 625、ゼネラル No. 625に相当します

\*水銀電池の寿命は約2年ですがご使用になると  
きは次のバッテリーチェッカーでテストしてく  
ださい

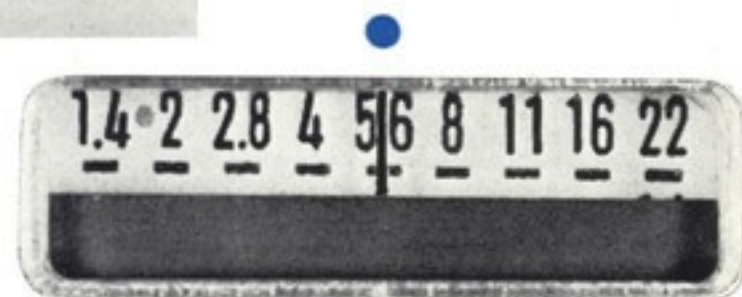
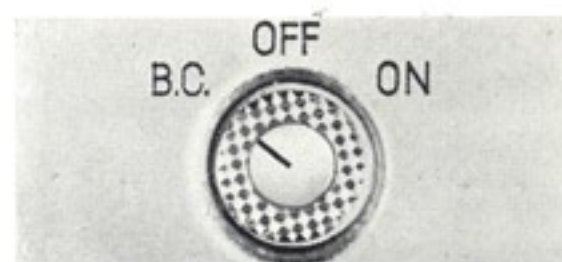




\*長い間カメラを使用しないときは水銀電池を外し乾燥した場所に保存して下さい。水銀電池を外したときは汗や指紋がつかぬよう特に気をつけて下さい。万一電池が汚れたまゝ用いますと接触不良となることがあります

\*しばらくご使用にならぬときは水銀電池回路切替ボタンをOFFにしておいて下さい

\*低輝度切替ボタンを扱うとき P-28 図のように左手の親指で操作して下さい



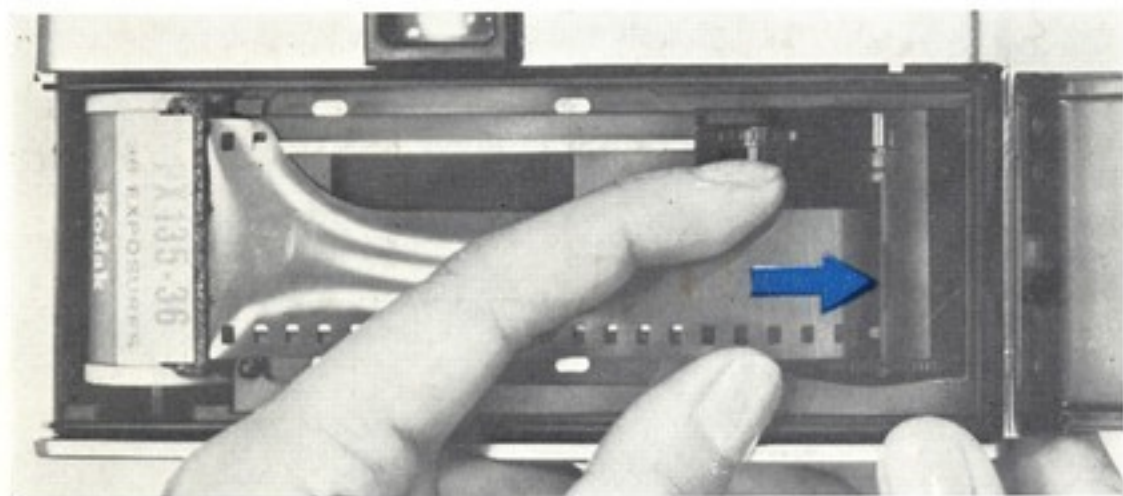
## 2. バッテリーチェッカーの扱い方

水銀電池を入れたときとかメーターの振れがおかしいと思ったときはバッテリーチェッカーで電圧を確かめて下さい

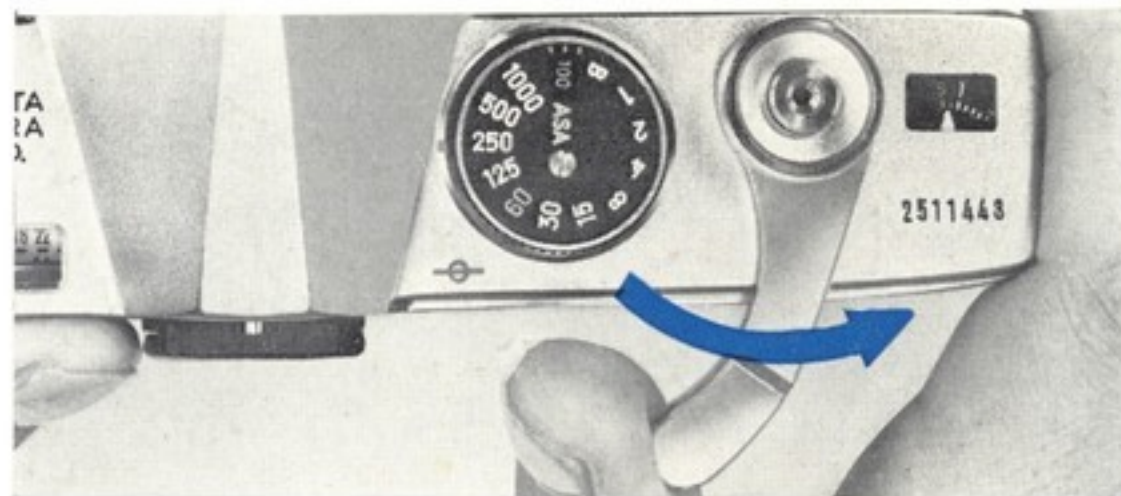
1. 水銀電池の回路切替ボタンを回して B.C. に合わせます
2. 指針がチェックマークにあれば電圧は良好で指針がマーク以外にあるときは電池の不良を意味します。このときは新しい電池と交換して下さい



## 撮影の手順



1. カメラにフィルムを入れます (このときフィルムの入っているパトローネの軸のでている方をカメラの下側にします)



2. フィルムカウンターに1がでるまで巻上げレバーを巻きます

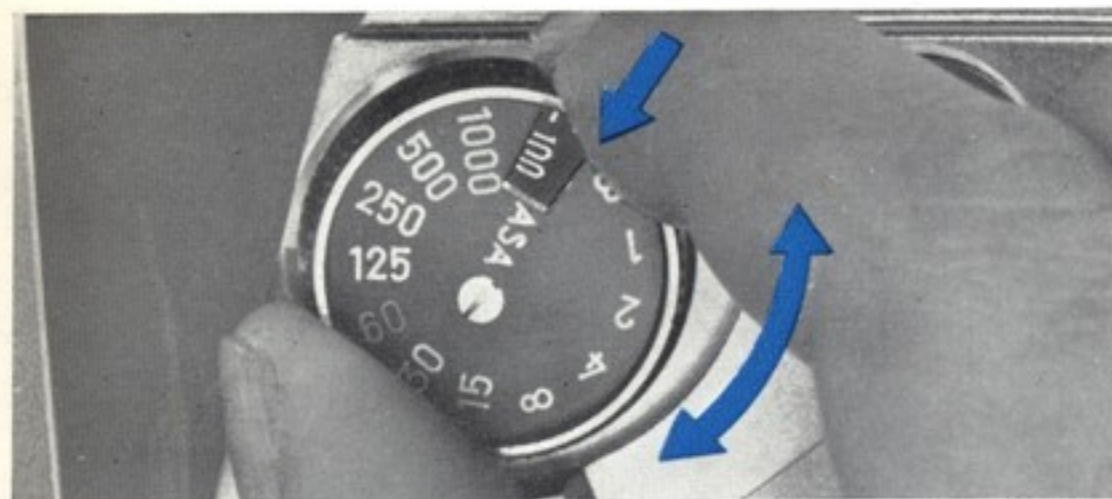


5. メーターの指針の示す絞り目盛にレンズの絞りを合わせます

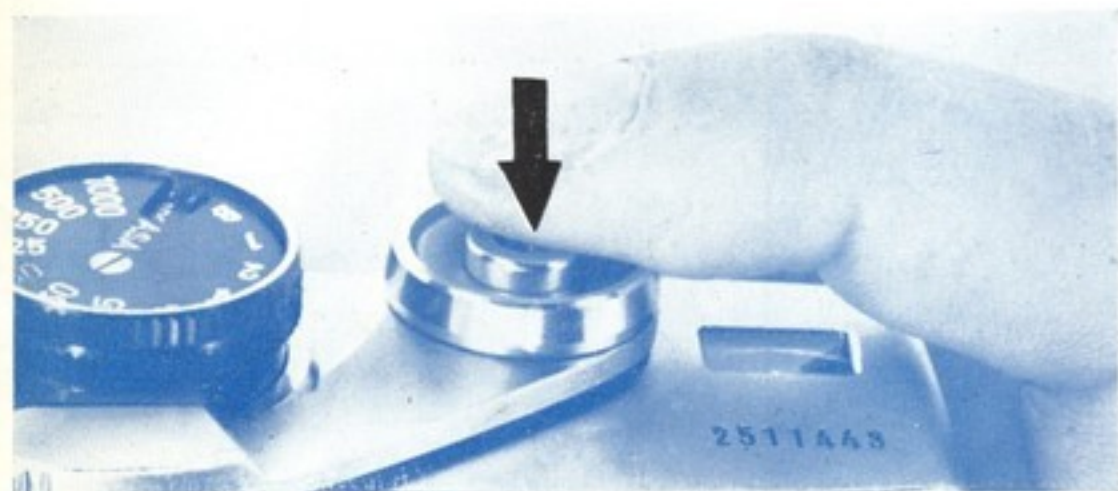


6. ピントを合わせます (絞り効果をみたいとき絞りボタンを押します)

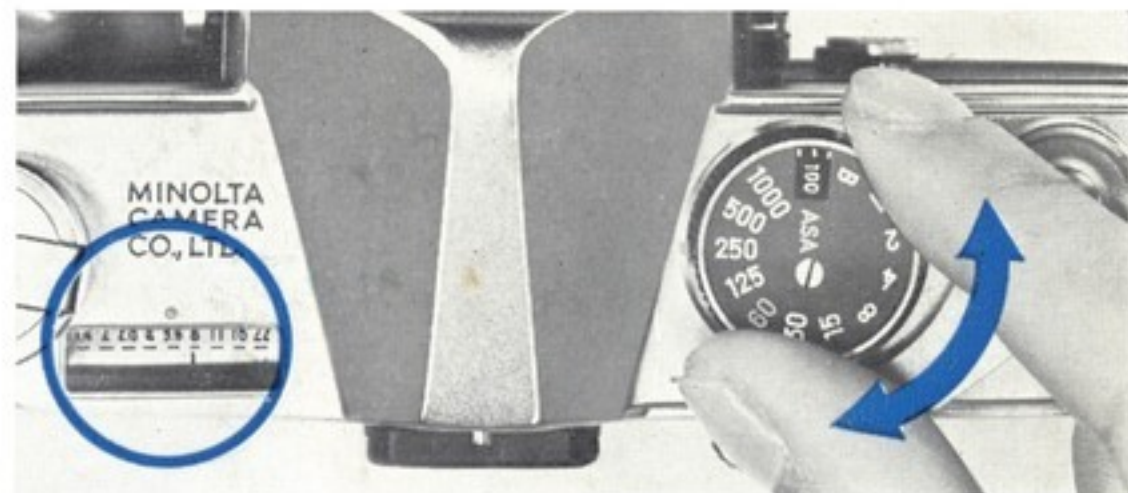




3. 使用フィルム感度をシャッター軸の外周のリングを引きあげ感度調節窓の目盛に合わせます



7. 構図を決めシャッターを切ります



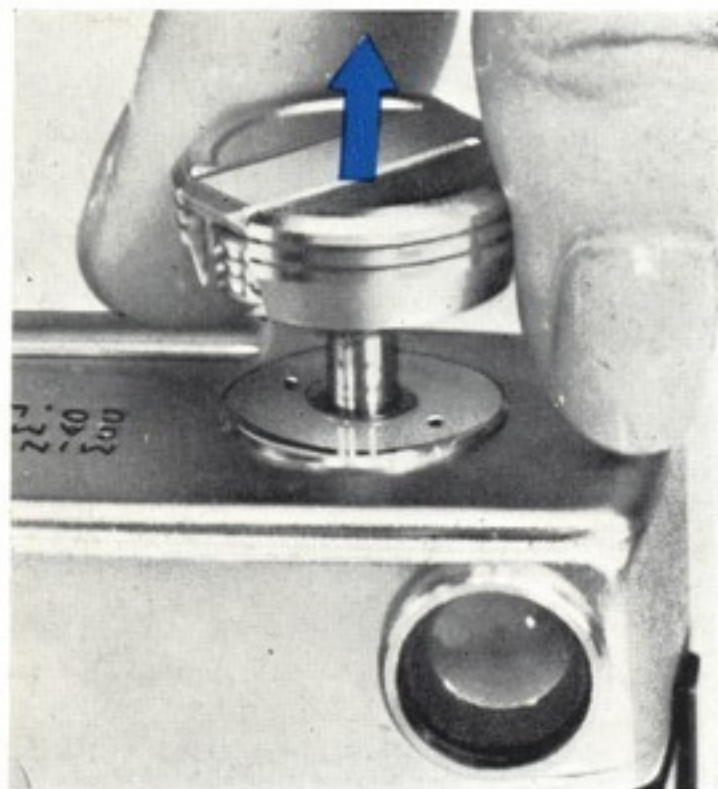
4. シャッター速度を決めてメーターの振れをよみます

☆セルフタイマーをご使用のときはフィルム巻きあげレバーを巻きあげてから始動ボタンを押してください。(くわしくは40頁のセルフの項をご参照ください)

☆写真の写し方についての色々な知識等については朝日新聞社発行の写真に関する本などご参照ください



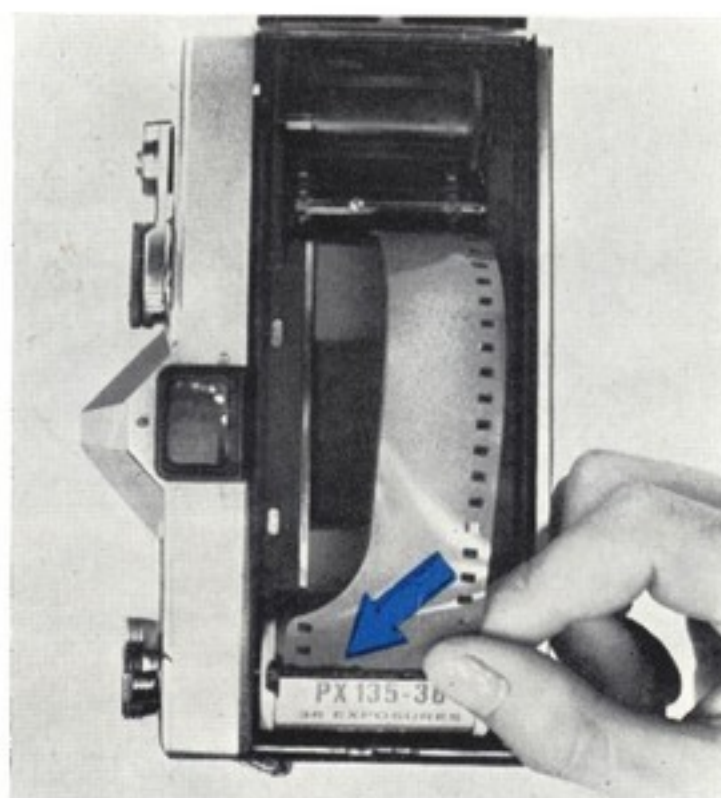
## フィルムの入れ方



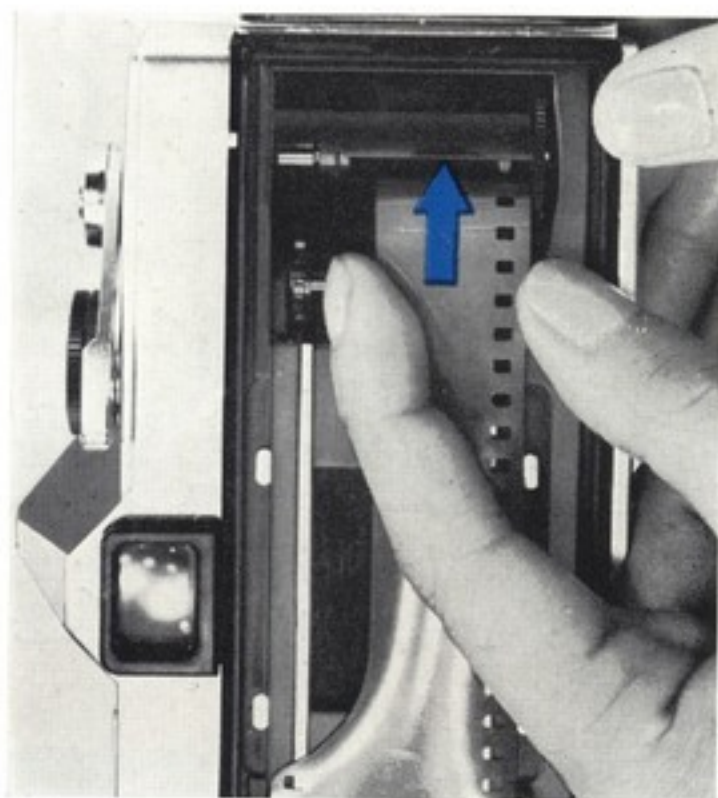
1. 裏蓋開閉ノブ  
(巻戻しノブ兼用)



を一段引き出しさらに強く少し引くと裏蓋が開きます。裏蓋を開くとフィルムカウンターは自動的にスタート位置Sに戻ります

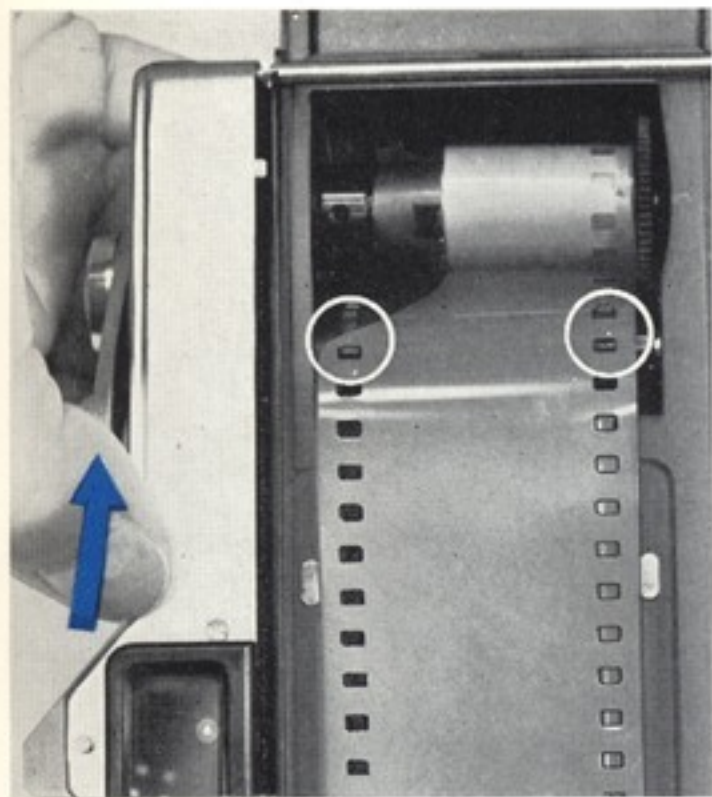


2. パトローネをカメラのフィルム室に入れ裏蓋開閉ノブをもと通りに押しこみます。この場合パトローネの軸の出ている方を上にして先に入れ軸の出ている方を底の方に入れます。(パトローネとは市販のフィルムが入っている容器です)

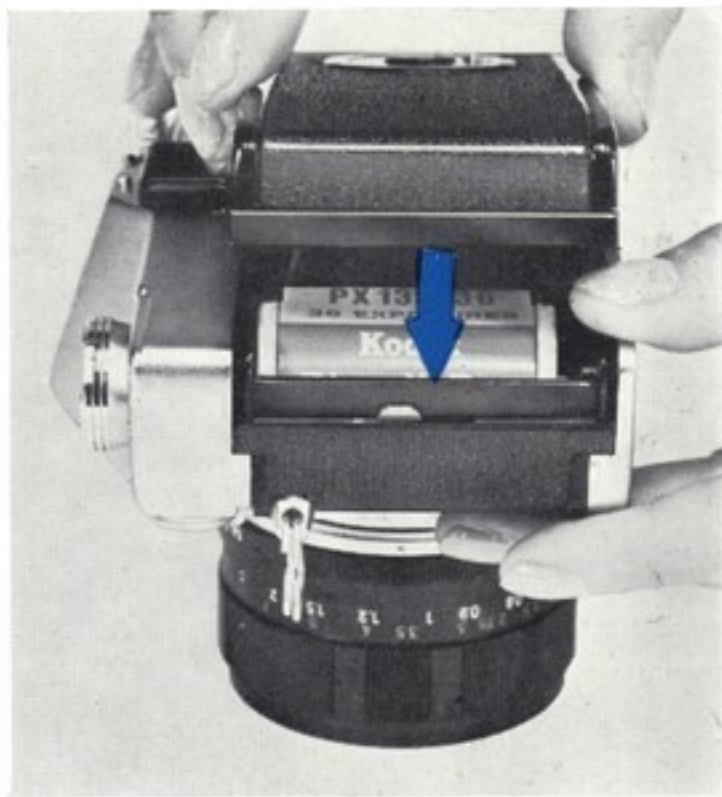


3. フィルムの端をパトローネから少し引き出し、巻取軸のみぞの爪にフィルムの穴がかみ合うよう矢印側に差しこみます。巻上げレバーを回してフィルムの送り穴(パーフォレーション)をスプロケットの歯にはめます

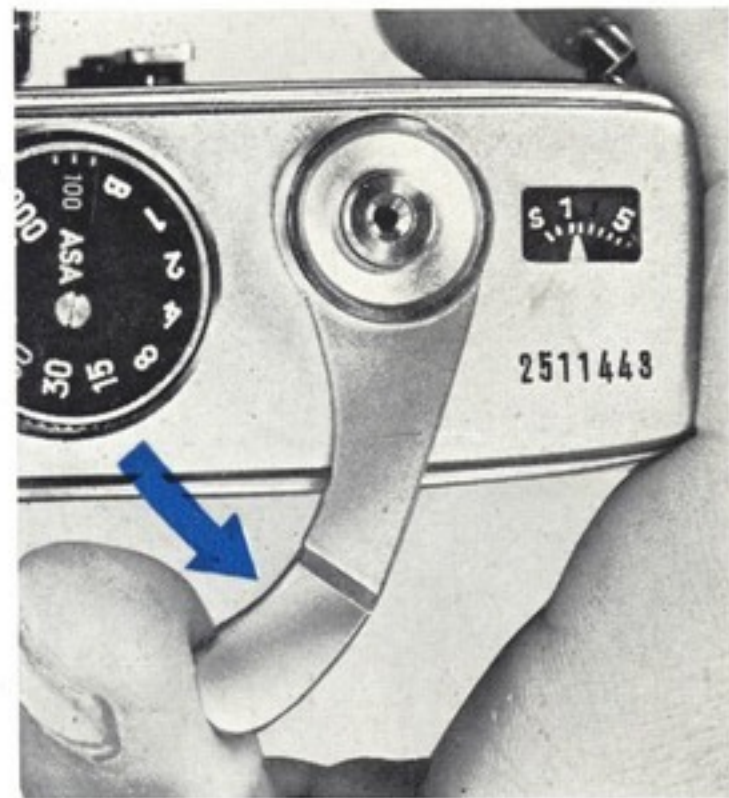




4. 巻上げレバーを少しずつ回してフィルムの両側の穴にスプロケットの歯がかみ込むところまでフィルムを巻きとると安全です。途中で巻上げレバーが動かなくなればシャッターボタンを押すと再び巻上げができます



5. フィルムが平行に巻きとられていることを確かめてから裏蓋をしめます



6. 巻上げレバーを止まるころまで回してシャッターボタンを押す、この操作をくり返してフィルムカウンター窓の▲マークに1をだします。これでフィルムが撮影位置に送られ同時にシャッターもセットされています  
 ☆このとき巻戻しクランクを矢印方向に回し、フィルム面のたるみを直しておきます



## フィルム感度表示板

このカメラにはメーターが内蔵されておりフィルム感度調節ダイヤルに使用中のフィルム感度を合わせますが、このダイヤルはASA目盛になっています。そこでDIN 標示のフィルムを使ってASA 感度に換算するときや、装填したフィルムの感度を忘れないようにするためこの感度表示板を利用します。ダイヤルの突起を回してASA/DINと書いた白い指標に感度数を合わせておけばよいのです。例えばASA 100 のフィルムならこの写真のように合わせます（下の目盛がDINを表わします）

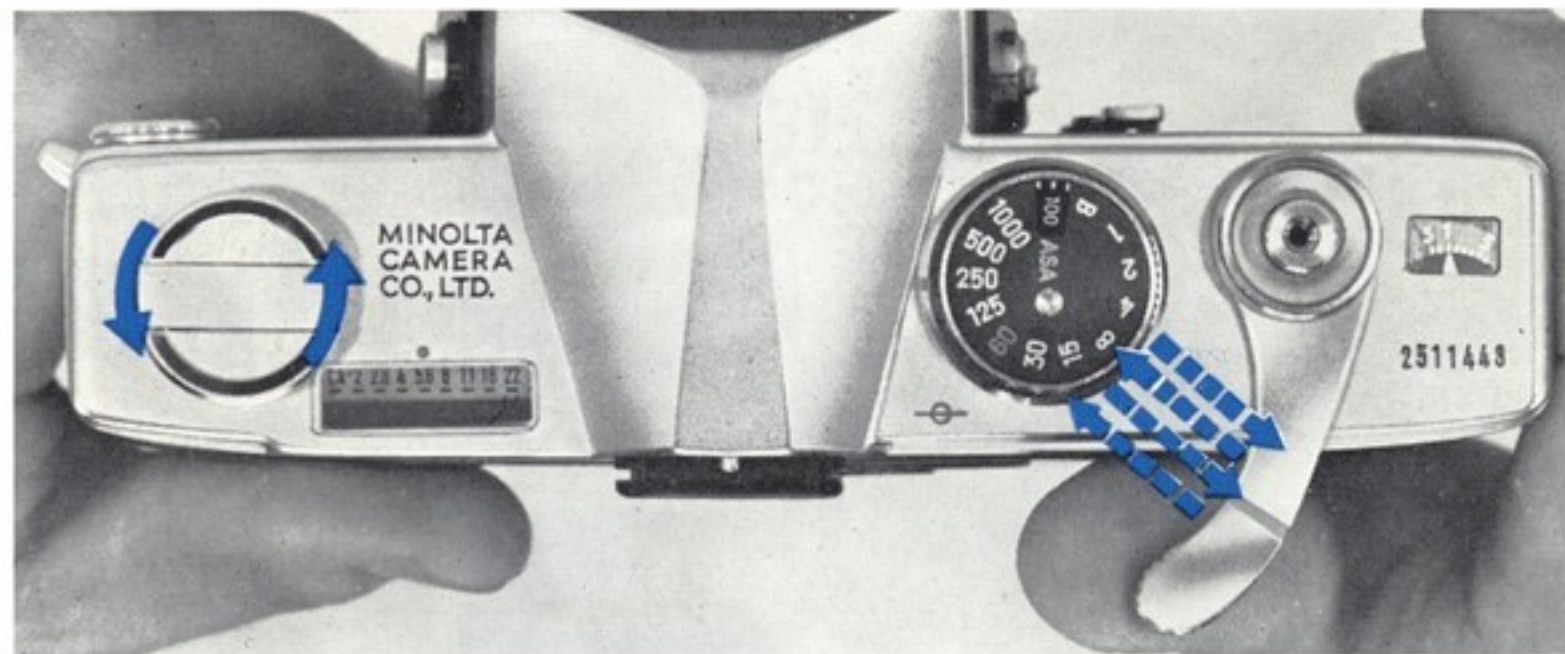
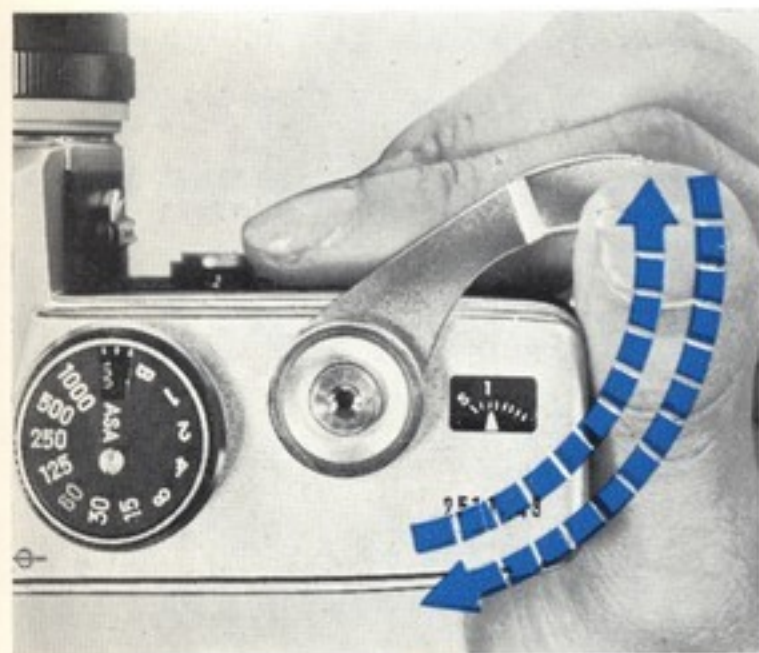


☆フィルムの出し入れは日陰でおこなってください

☆フィルムを入れるときシャッター一瞬に手を触れないようご注意ください



## 巻上げレバーの扱い方



1. 巻上げレバーは止まるところまで完全に回わしてください。一度に巻上げても、数回に分けて小ぎざみに巻上げてもかまいません
2. フィルムを巻上げた場合、内部フィルムが正しく送られていると、巻戻しノブが反時計方向に回ります

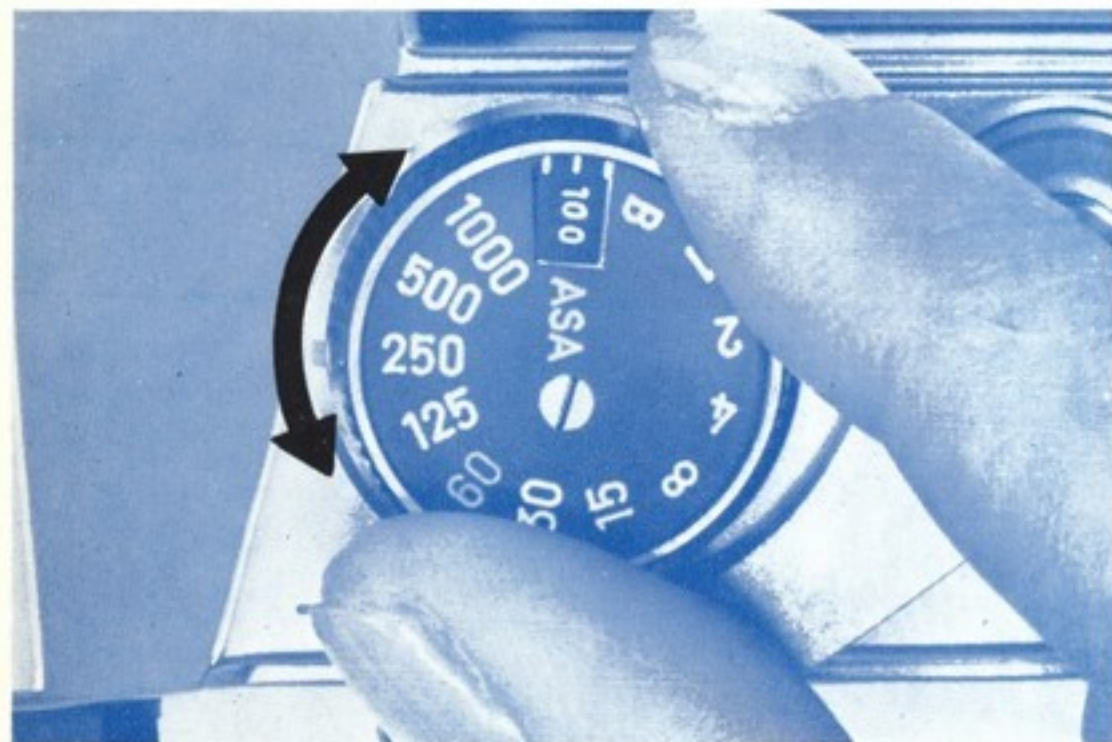
☆最初のフィルム巻取りの場合、パトローネ内のフィルムがゆるんでいることがありますから、回らないこともあります

☆巻上げレバーを止まるところまで完全に回さないとシャッターボタンは作動しません

☆巻上げ操作によってフィルムが一コマ巻上げられフィルムカウンターが一目盛進み、シャッターがセットされ、自動絞り機構の準備が完了します



## シャッター速度はこうして



シャッター速度ダイヤルはそのまゝ回わして希望する速度目盛を赤い指標に合わせますとスピード調節ができます

☆シャッターダイヤルは左右どちらに回わしても結構です

☆シャッター速度ダイヤルのB及び1から1000までの数字は、それぞれバルブ、1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒、 $\frac{1}{4}$ 秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までのシャッター速度をあらわしています  
各目盛のセットはクリックストップの位置で行ってください

☆シャッター速度の変更は巻上げる前後、いずれでもさしつかえありません

☆各目盛の中間速度は使わないでください

☆B（バルブ）は2秒以上の長い露出に用いシャッターボタンを押している間シャッターが開いています

☆赤字の60はスピードライト（ストロボ）を使って撮影するときを利用するシャッター速度で $\frac{1}{60}$ 秒です



## 絞りの合わせ方

絞りリングには f1.4 のレンズは 1.4、f 1.8 のレンズは 1.8 というように各々レンズの開放時の F 値から 16 までの絞り目盛 (F 値) が白字できざまれています。絞りリングの希望する絞り値 (白字) を前部の白マークに合わせます

☆絞りは光量調節や被写界深度 (P-35) の調節に用います

☆開放絞りの F 値から F 16 まで各目盛間の中間にセットすると中間絞りがえられます









☆絞りは数値が大きくなるほどレンズを通してフィルム面にとどく光量が少なくなります

この関係は右図のように F 値が大きくなるに従ってレンズを通る光量が減っていき F 値の 1 目盛の変化で  $\frac{1}{2}$  に変わります。露出の調節はこの絞り目盛とシャッター速度の組み合わせで決まります

☆絞りとシャッター速度はお互いに隣りの目盛の 2 倍、 $\frac{1}{2}$  の露光量となる関係になっています。

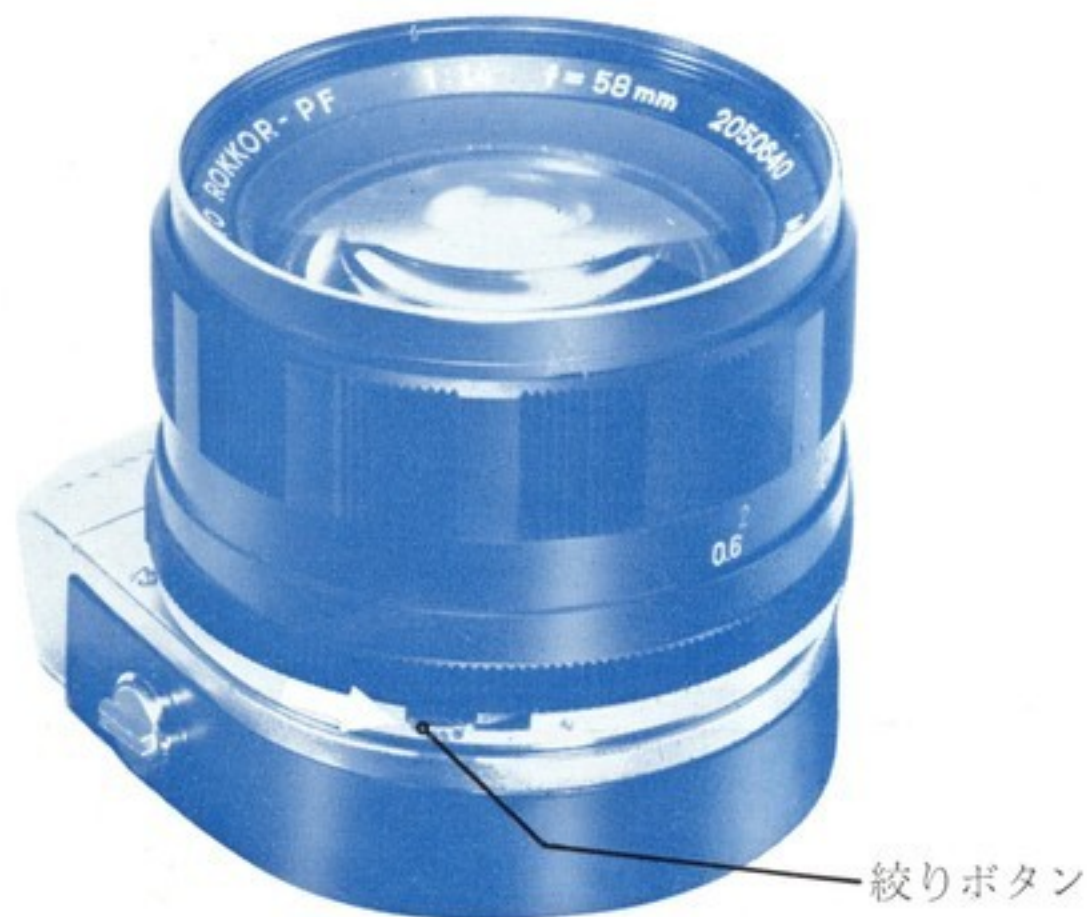
☆絞りの調節はフィルム巻上げの前後いずれでもかまいません

☆このカメラは露出計が内蔵されていますから絞りの調節はメーターの指針によって合わせてください (メーターの使い方 P-25 参照)

絞り	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
光量								
	2	1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64







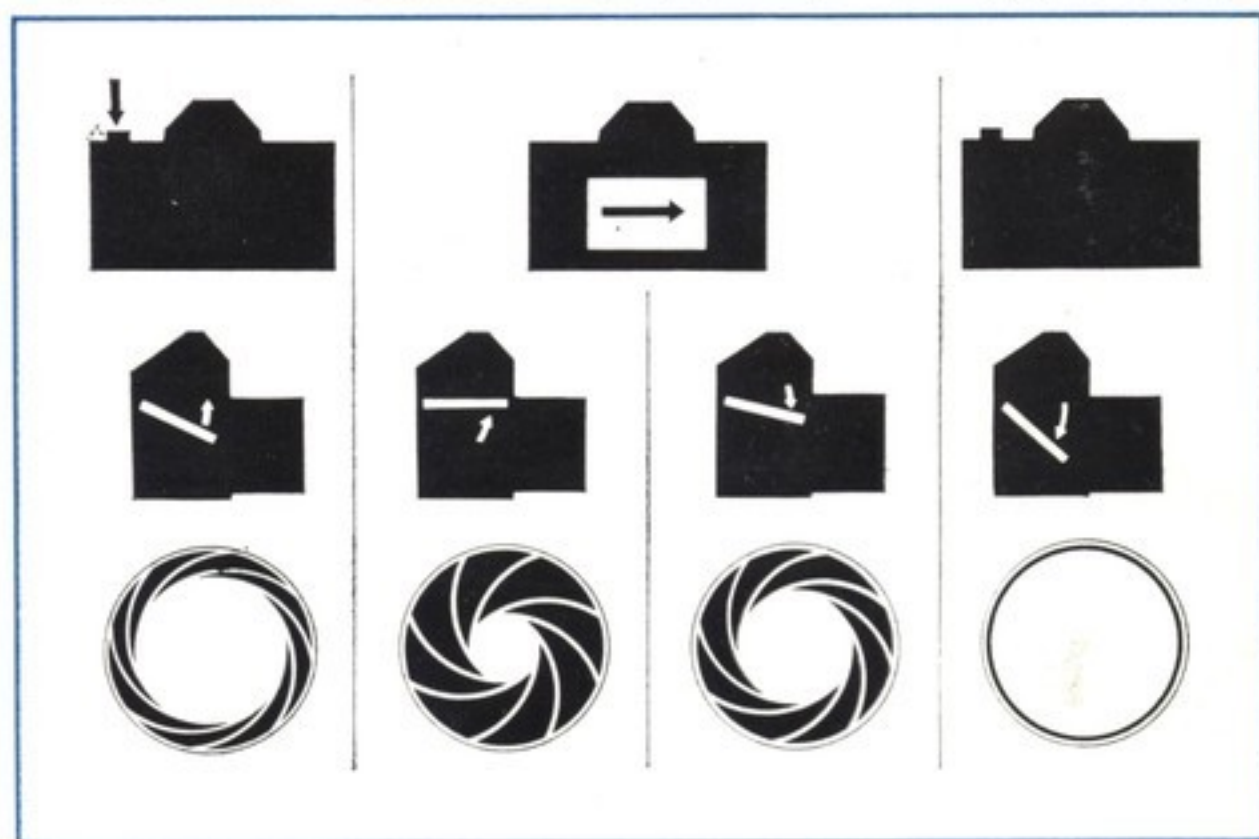
ファインダーはいつも絞りが開放の状態で見えますが、絞りボタンを写真の矢印方向に止まるまで押下げますと、使用する絞り値の状態（写真に写る状態）が見えますから、ピントの合う奥行きや背景のボケ具合がよくわかります

ミノルタSRの特長は、完全自動絞り機構にあります。この自動絞り機構は巧妙な独創的設計によって、常に絞りが自動的に開放となっているので、明快な視野で構図の決定と焦点調節が迅速にできます。すなわちシャッターボタンを押せばシャッターが開く寸前に前もって選んでおいた絞り値まで自動的に絞られ、シャッター幕が走り去ると同時にもとの開放になります。ですからファインダーは常に開放の明るさを保ち暗いところでも充分ピント合わせが可能です。従って、スナップ



のときなど、いちいち絞りを開放にしたり、絞ったりする手数がはぶけ、シャッターチャンスをとらえるのに非常に便利です。しかもこの完全自動絞り機構は、標準レンズの他に各種オートロック交換レンズに対しても同様に働きフィルム巻上げ前後いつレンズ交換をしても交換レンズの絞りは常に自動的に開放になっています

シャッターボタンを押すと一瞬の間にこれだけの作動をします





## SR-7メーターの使い方



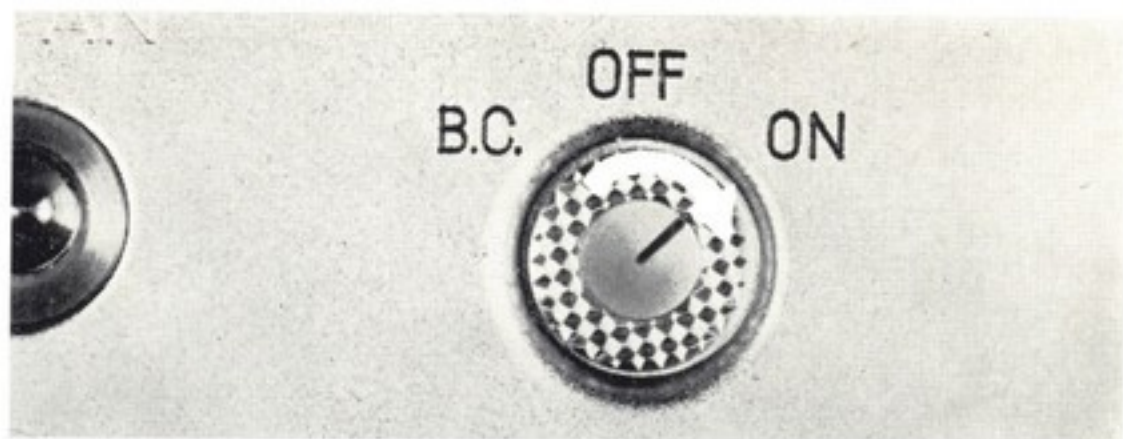
フィルム感度調節窓

SR-7には高性能なCdSメーターがシャッターダイヤルに連動しており、測りやすい追針方式で簡単に適正露出がえられます

(測定にはシャッター速度を先に決めるときと絞りを先に決める時の二方法がありますが、これは撮影目的によって決めます)

### 1. フィルム感度を合わせます

シャッターダイヤルの上側にASA感度を合わせ目盛の窓(フィルム感度調節窓)があります。シャッターダイヤルの外周のリングを引きあげて動かしますと左右に回りますから、使用するフ

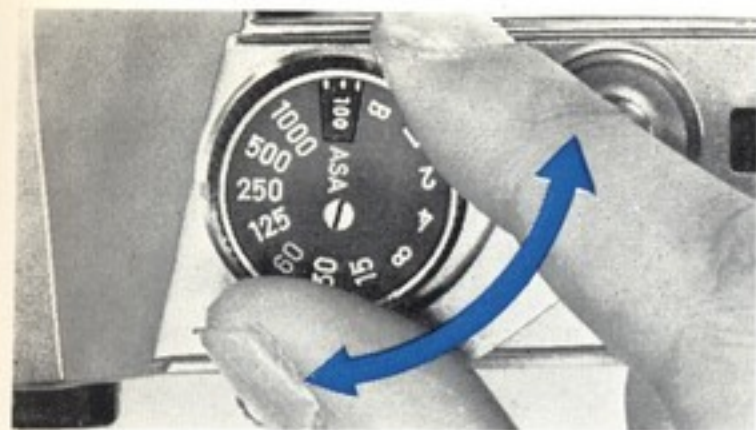


ィルム感度目盛をこの窓に合わせます(このときシャッターダイヤルの外周のリングを少し回わしてみてもフィルム感度の目盛が窓の中で充分クリックにはまっているかどうかをよくたしかめておきます)

☆感度調節窓のASA目盛は6~6400です

☆フィルターを取付けたら、特別な意図で露出を加減するには、使用フィルムのASA感度数をフィルターの露光倍数で割った値をフィルム感度調節窓に合わせてください





## 2. 水銀電池回路切替ボタンの切替

水銀電池の性能を調べてからカメラ底部の切替ボタンをONにします。(バッテリーチェッカーについてはP-14を参照)

## 3. シャッター速度を先に決めるとき

シャッター速度ダイヤルを希望する速度目盛に合わせ、カメラを被写体に向けると、メーター指針窓の指針がそのシャッター速度に適した絞り値を示します

このメーター指針が示す絞り値をよみとりレンズの絞り値を調節すれば適正露出がえられます

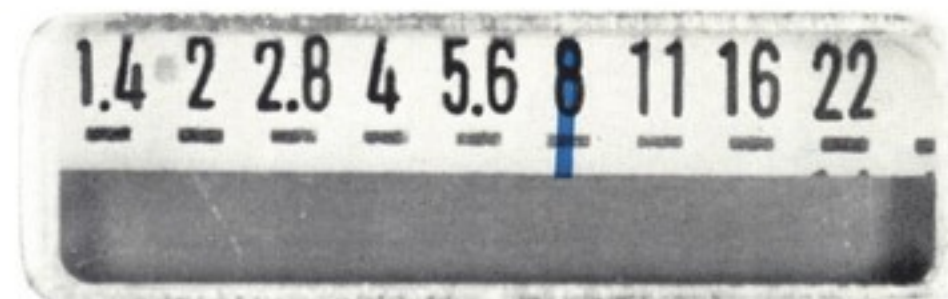
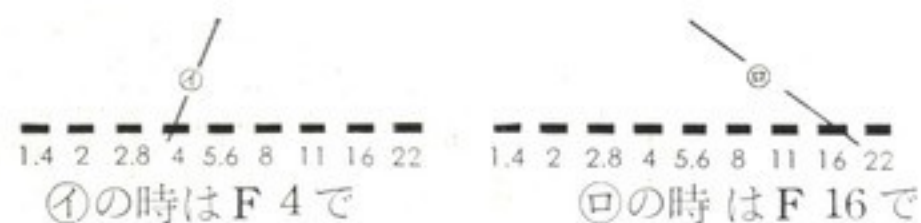
## 4. 絞りを先に決めるとき

あらかじめセットしたレンズの絞り値にメーターの指針が合うようにシャッター速度ダイヤルを回すと、シャッターダイヤルはメーターと連動していますから、そのまま自動的に露出が決まります

☆一般の野外撮影でSS級のフィルムを使うときはシャッター速度は $\frac{1}{125}$ 秒にしておけば充分まにあいます。また明るい室内では $\frac{1}{30}$ 秒にし、動体はなるべく速いシャッター速度にしてください

☆集合人物、建築写真のように被写界深度 (P-35) を深くして使用するときにはできるだけ小絞りにしてください





☆シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より遅いとき及びB目盛使用のときは手ぶれの恐れがあるので三脚をご使用ください

☆絞り値の読みとりは直接指針の指した絞り値ではなく、ガイドの点線に沿って読みとります。このときの指針とガイド点線および絞り値の関係は上図のようになっています

☆1.4と2の間の・は1.8を示します

### 感度の切替

もし被写体が暗くてメーターの指針が働かないような場所では低輝度切替ボタンを押します（次頁の写真のように）メーターの内部では自動的に感度が切替えられて適正露出がえられます  
低輝度切替ボタンを使用するとき、右手でカメラを保持し、左手でピント合わせをする関係上、**左の親指で切替ボタンを押すと露出合わせが迅速にできます**

☆低輝度切替ボタンを扱うとき、指が受光窓にか

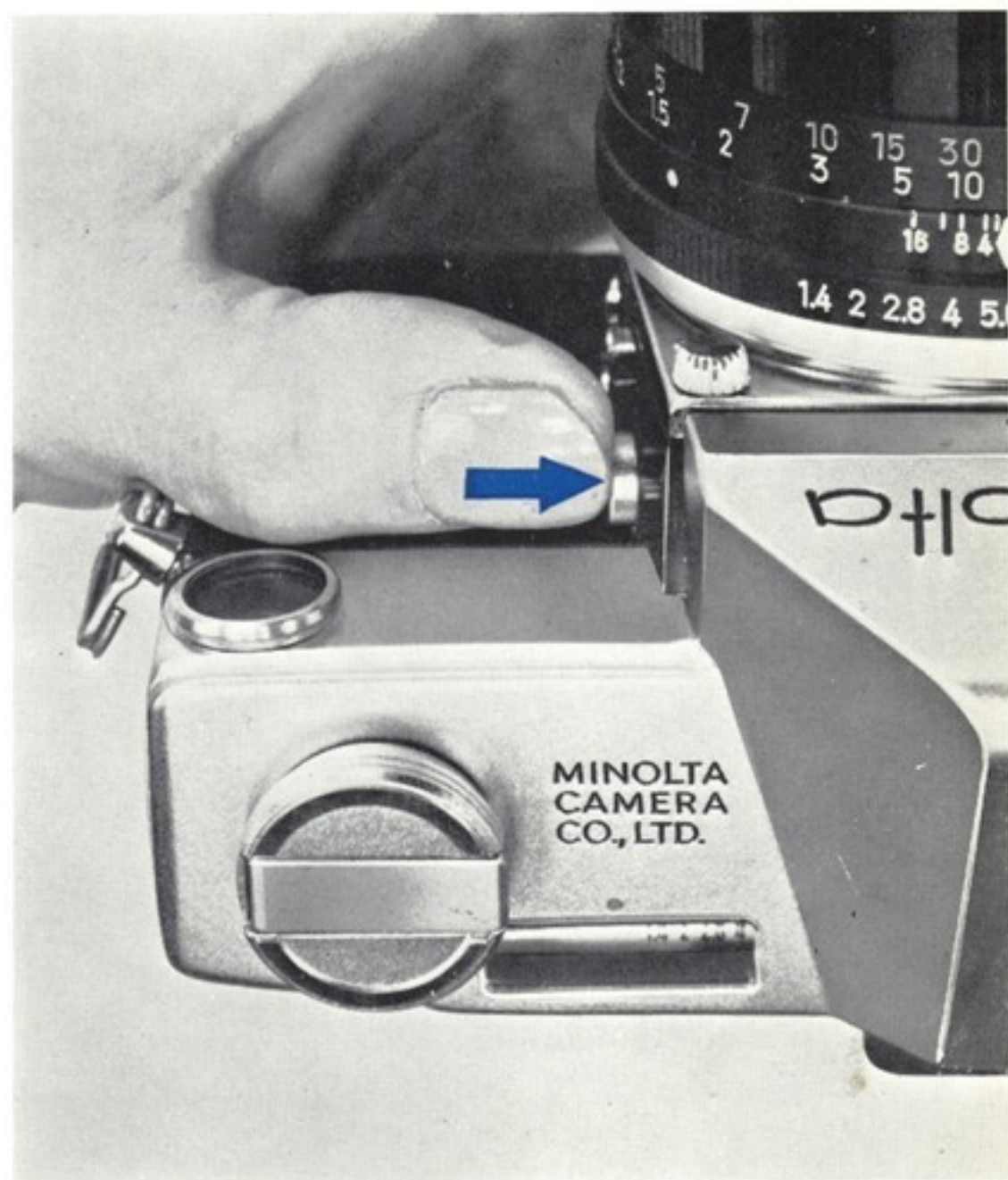


ゝらぬよう注意してください

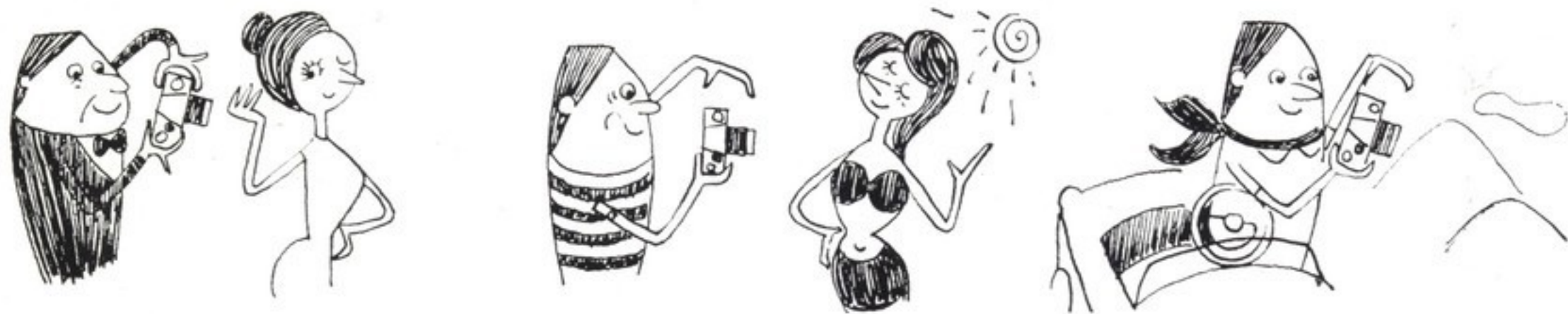
☆メーターの測光範囲は高低2段切換方式でAS A100のフィルムに対しEV1=F1.4, 1秒～EV 17=F11,  $\frac{1}{1000}$ 秒の広範囲に作動します

又ASA 6～6400までのフィルムに連動します

☆シャッターダイヤルは目盛の中間が使用できませんがレンズの絞り値は中間目盛も使えます  
この意味からシャッター速度を決めてメーターの指針に従い絞りを合わす方法をおすゝめします







### 1. 人物の場合

人物をカメラ位置から測定した場合、人物と背景の総合した明るさを測ることになるので、背景の明暗によって人物の露出が変化します。とくに雪中や明るい建物、空をバックにした場合、人物が露出不足になり易いものです。このような時は、できるだけ主体に近づいて測定してください

### 2. 逆光の場合

逆光撮影のときは露出計の受光面に直射光が入射しないよう注意して測定してください、どうしても受光面に入射するような時は、手などで覆いをして直射光の入らないように測り、その値の約3倍を与えてください。この方法は人物に限らず近づいて測れない被写体にも応用できます

### 3. 風景の場合

風景は人物のように近づけないので、カメラ位置から測ります。この時は空からの直射光が直接露出計の受光面に入射しないよう注意します。直射光が入ると露出不足になります。非常に広い風景や、風景全体を写す時は撮影位置から比較的近い地上に受光面を向けて測ります。またコントラストの強い逆光の風景や高くて狭いビル街では指示値の約2倍の露出を与えるようにします。特に雪景や非常に明るい被写体の中に黒い被写体のあるときは暗い部分が適正露光になるよう露出計指示値の約2倍を与えるようにしてください

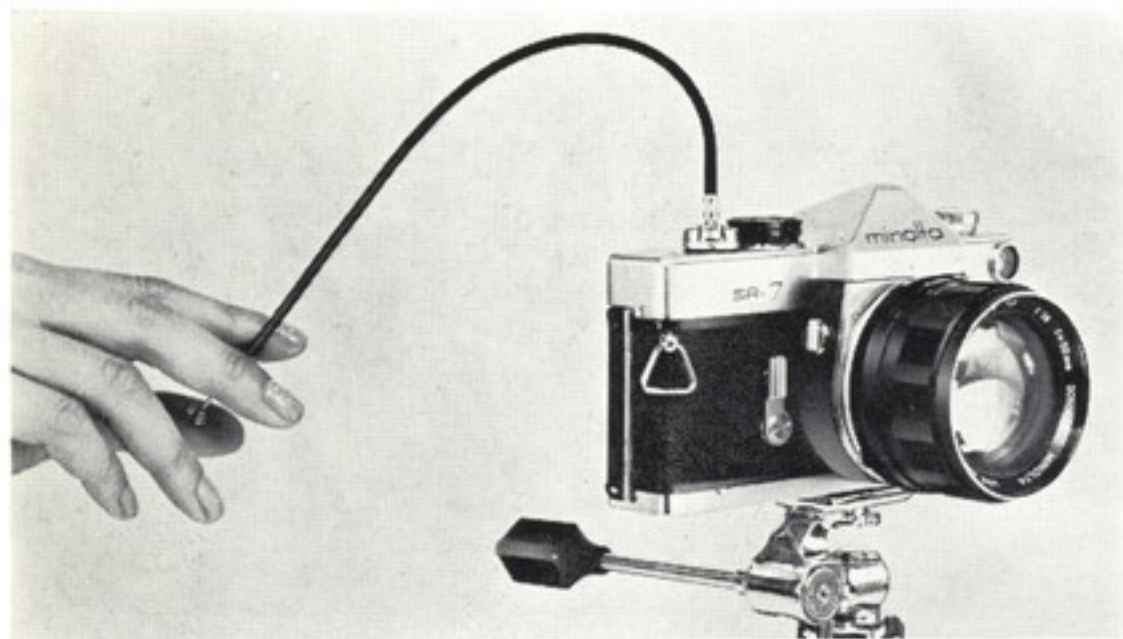


### 1. カメラの構え方

カメラの構え方にははじめに述べたように色々ありますが、このカメラでは写真のような保持方法が露出計を使用するとき等にもっとも合理的になるようにつくられています。いずれの場合もカメラが動かないようしっかり顔にあてひじをしめてシャッターボタンを静かに押してください。カメラが動くと、せっかくの写真もぶれてしまいます。なおファインダーは右の眼でのぞく方が巻上げのときレバーが顔につかえず便利です。1/30秒より遅いシャッター速度で写すとき手持ち撮影ではカメラブレを起こす恐れがありますから、三脚がなければ適当な台の上へのせるかまたはそわせるかしてください。三脚を使う場合はケーブルリリースを使うと安全です







☆二重露出防止になっていますから一度シャッターを切れば次のフィルムを完全に巻上げなければシャッターは切れません

☆ケーブルリリースはシャッターボタンの上にネジ込みます

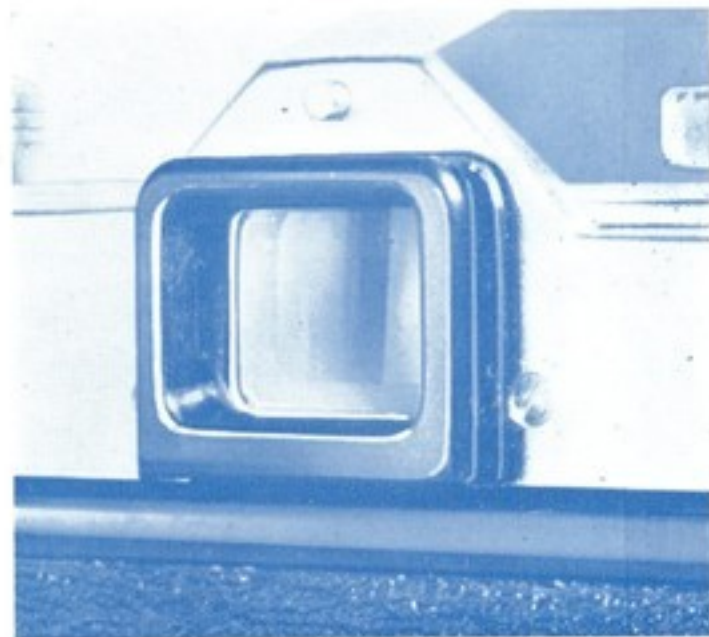
☆1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のように遅いシャッターを切ったときは必ずシャッター作動が終ってからフィルムを巻上げるようにしてください。特にフィルムを入れずに空写しをするときに注意してください



## 2. ピント合わせ

ファインダーをのぞき焦点調節リングを左右いずれかへ回すとボケている被写体が鮮鋭になります。(ファインダーの中央部には斜めに交叉したマイクロプリズム群が集っており、映像が明るく、ピントの合わぬときのボケが強調されます) もっとも鮮鋭になったところでピントが合います(右図参照)



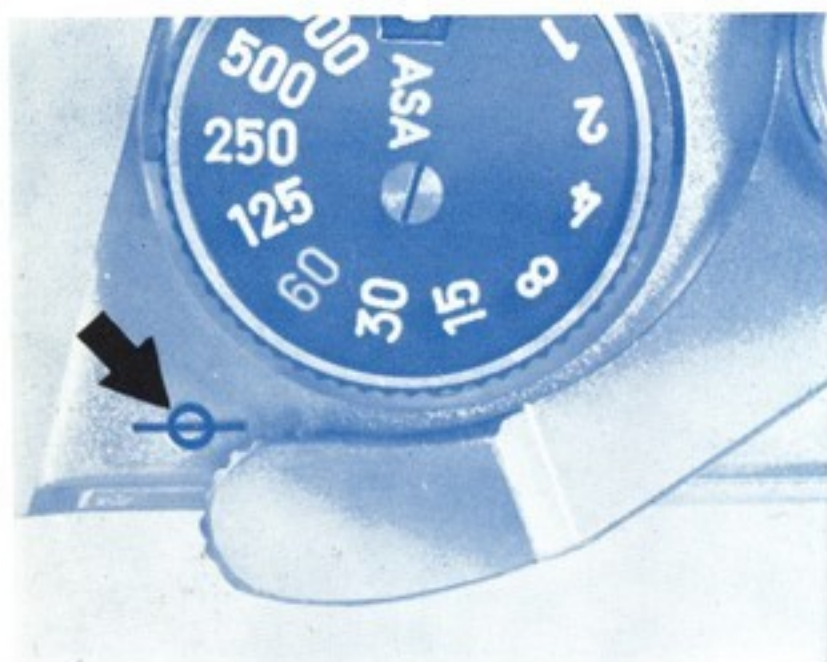


☆カメラの接眼枠の左右の溝は使用範囲を拡大するためのアクセサリクリップ、ファインダーを見やすくするアングルファインダーやマグニファイヤーを上部からはめこむためのものです

### 赤外線撮影のピント合わせ

赤外線は波長が長いので、赤外線フィルムを使用するときはまず被写体に焦点を合わせてから、◆マークの示す距離目盛をよみとって、その目盛を赤字のRの位置までずらせてください。赤外線撮影をするときは赤いフィルターを併用します





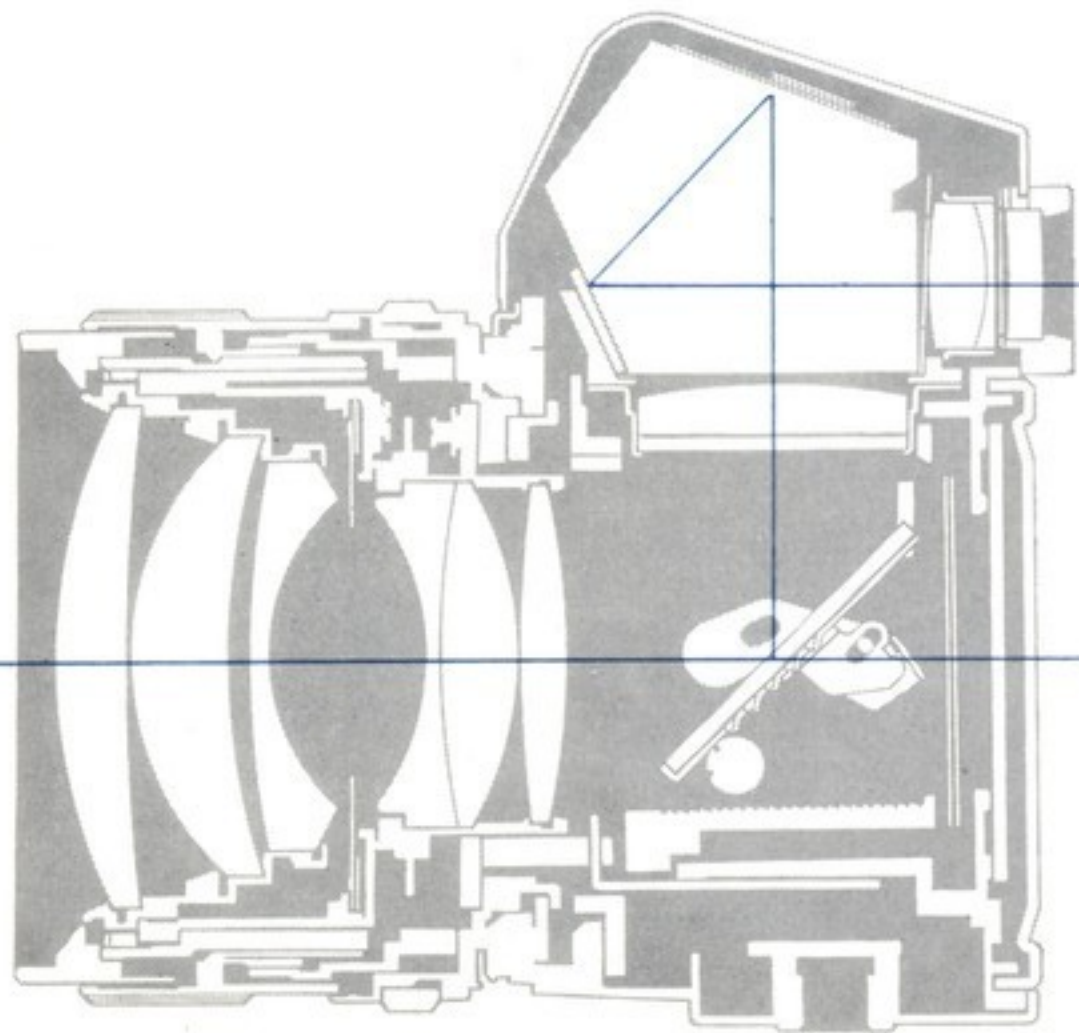
### フィルム面の位置

カメラ上カバーの赤い⊖マークはフィルム面の位置を示すものです。カメラから被写体までの距離とは厳密にいうとレンズからではなくフィルム面からの距離をいゝます。

### 3. ファインダーと構図

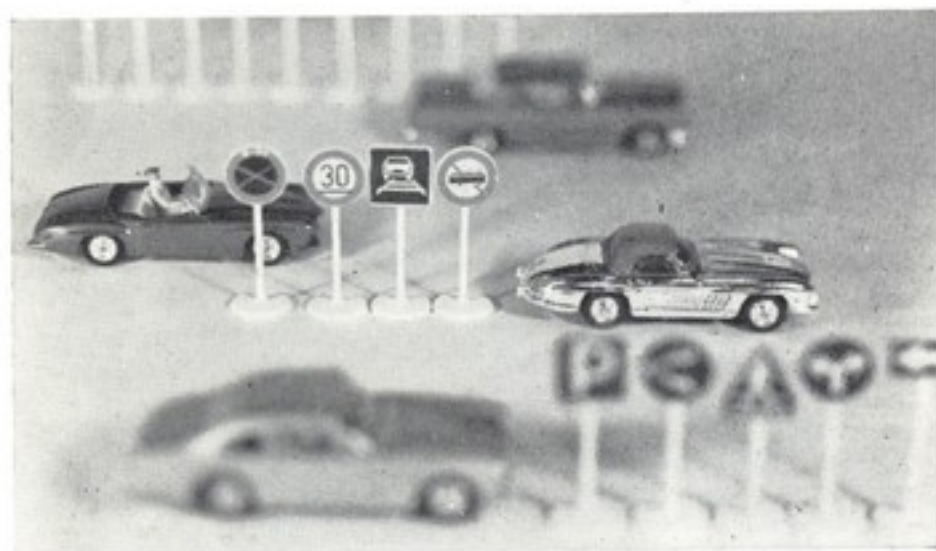
SRは撮影レンズの画像そのものをファインダーを通して見るため被写体の遠近感や背景との関係、さらにカラー撮影の場合の色彩効果まで写るとおりにわかります。特にNEW SR-7では外形は小造りでもミラーが大きくなっておりレンズ交換をしてもミラー切れが少なく又ファインダー視野も94%と写る範囲は大変正確です。このようにSRではパララックスが全くなくファインダーで見た通り思い切って画面一ぱいの構図が決められます。



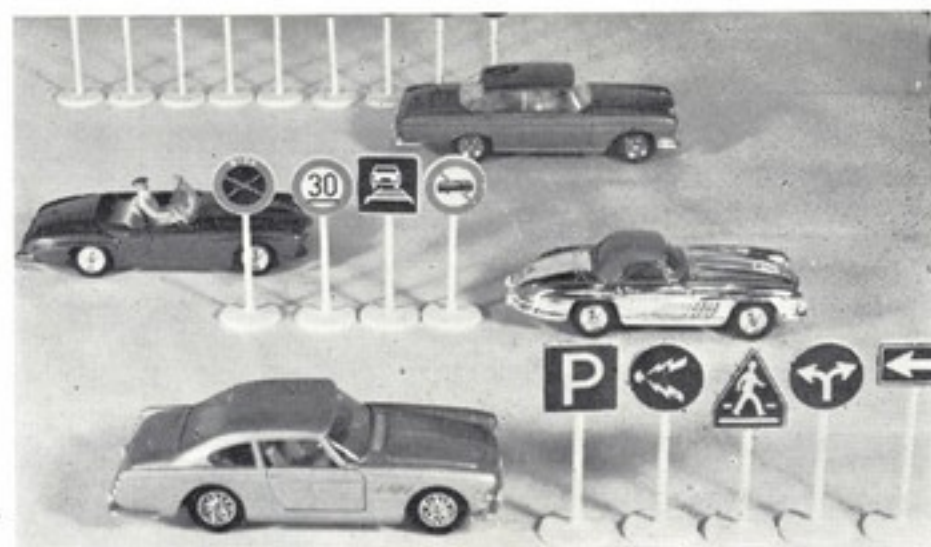




## 被写界深度について



←レンズを開放にしたとき



絞りを絞ったとき→

レンズというものはある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが鮮鋭に写るだけでなく、その前後にも実用上十分鮮鋭に写る範囲があります。これをレンズの被写界深度といえます。この写真は、その関係を示す作例で、左側はレンズを開放に近い状態にしたときであり、右側は小絞りにしたときのもので、ごらんのように小絞りの方が被写界深度が深くなっています。

### 被写界深度の性質とその利用

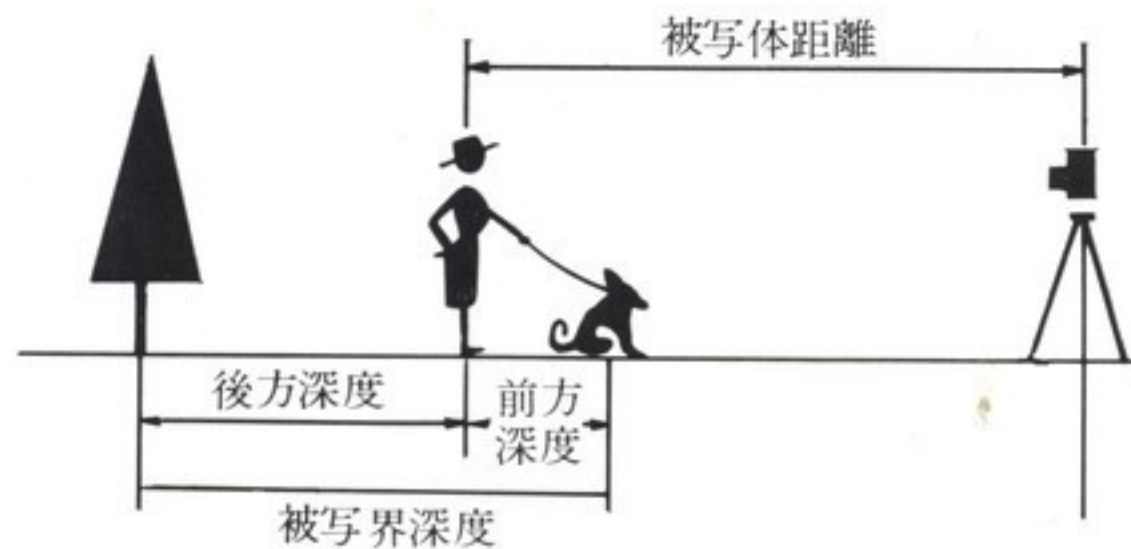
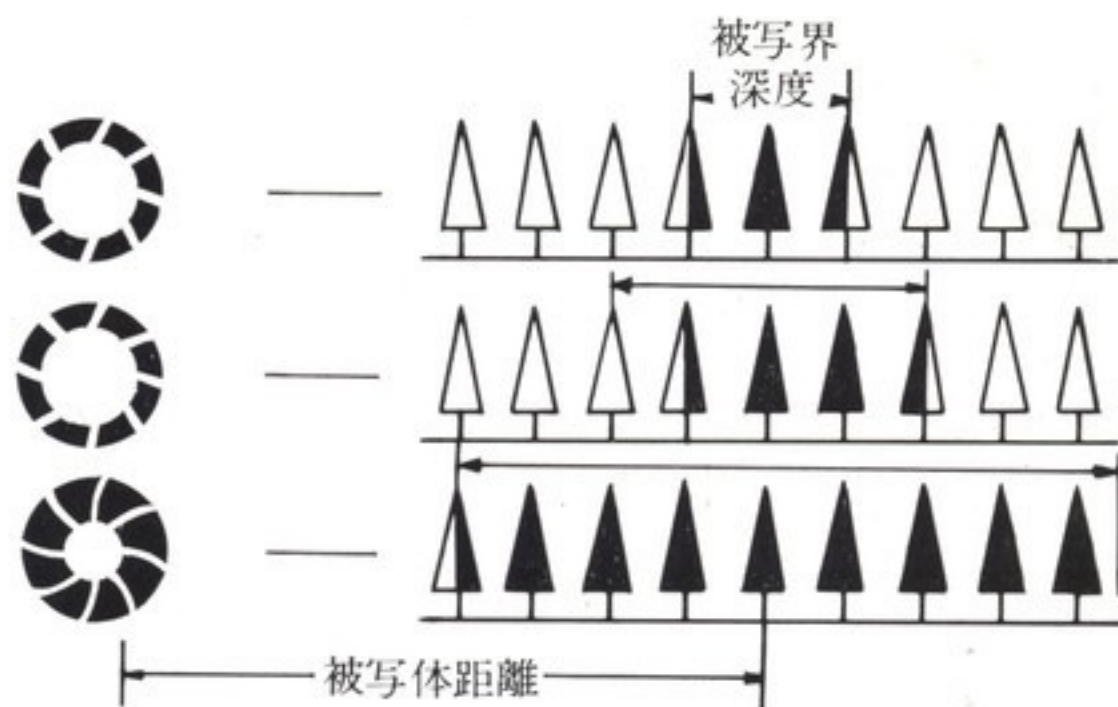
被写界深度は絞りの変化によって自由に深くしたり浅くしたりできます。写す目的や作画意図によってこの性質を利用し、近距離にいる人物とともに遠くの背景も一様に鮮鋭に写したり、逆にわずらわしい背景を適当にボカして人物だけを鮮鋭に写して迫力を強調したりするときに役立ちます。

### 距離目盛と被写界深度目盛の見方

ファインダーをのぞいて被写体にピントを合わ



せ、レンズ鏡筒の被写界深度目盛を読みとると、ピントの合う奥行の限界を数字で知ることができます。被写界深度目盛の中央にある◆マークは焦点を合わせた被写体までの距離を示しています。この◆マークの両側にある同じ絞り数字が各々絞りの被写界深度、つまり鮮鋭に写る範囲を示しています。例えば5を示した場合5mということですが絞りをF11で写す場合、被写界深度は◆マークの左右の11の目盛が示す距離目盛約3mから10mの範囲にあるわけです





☆絞りを絞る (F値が大きくなる) ほど被写界深度は深くなります  
 ☆近距離よりも遠距離にピントを合わせたときの方が深くなります

☆焦点を合わせた被写体の手前より後の方が深くなります  
 ☆焦点距離の短いレンズほど深くなります

オートロッコール PF 58mm F1.4の被写界深度表

絞(F) 距離(m)	絞(F)								絞(F) 距離(m)	絞(F)							
	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16		1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	74.2 ∞	53.8 ∞	38.0 ∞	26.9 ∞	19.1 ∞	13.5 ∞	9.6 ∞	6.8 ∞	1.5	1.47 1.53	1.46 1.54	1.45 1.56	1.43 1.58	1.40 1.61	1.37 1.67	1.32 1.75	1.25 1.88
20	15.8 27.3	14.6 31.7	13.2 41.9	11.5 76.7	9.8 ∞	8.1 ∞	6.5 ∞	5.1 ∞	1.3	1.28 1.32	1.27 1.33	1.26 1.34	1.25 1.36	1.23 1.38	1.20 1.42	1.16 1.48	1.11 1.57
10	8.8 11.5	8.5 12.2	8.0 13.5	7.3 15.8	6.6 20.8	5.8 37.7	4.9 ∞	4.1 ∞	1.2	1.18 1.22	1.18 1.22	1.17 1.23	1.16 1.25	1.14 1.27	1.11 1.30	1.08 1.35	1.04 1.42
7	6.4 7.7	6.2 8.0	5.9 8.5	5.6 9.4	5.1 11.0	4.7 14.3	4.1 25.3	3.5 ∞	1.1	1.09 1.11	1.08 1.12	1.07 1.13	1.06 1.14	1.05 1.16	1.03 1.18	1.00 1.22	0.97 1.28
5	4.7 5.4	4.6 5.5	4.4 5.7	4.2 6.1	4.0 6.7	3.7 7.8	3.3 10.2	2.9 18.1	1	0.99 1.01	0.99 1.02	0.98 1.02	0.97 1.03	0.96 1.05	0.94 1.07	0.92 1.10	0.89 1.14
4	3.80 4.22	3.73 4.31	3.63 4.45	3.50 4.67	3.33 5.02	3.11 5.61	2.85 6.74	2.55 9.42	0.9	0.89 0.91	0.89 0.91	0.88 0.92	0.88 0.93	0.87 0.94	0.85 0.95	0.84 0.98	0.81 1.01
3	2.89 3.12	2.85 3.17	2.79 3.24	2.71 3.36	2.61 3.53	2.48 3.81	2.31 4.29	2.11 5.22	0.8	0.79 0.81	0.79 0.81	0.79 0.81	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.84	0.75 0.86	0.73 0.89
2.5	2.42 2.58	2.40 2.61	2.36 2.66	2.30 2.74	2.23 2.85	2.13 3.03	2.01 3.32	1.86 3.85	0.7	0.70 0.71	0.70 0.71	0.69 0.71	0.69 0.71	0.68 0.72	0.67 0.73	0.66 0.74	0.65 0.76
2	1.95 2.05	1.93 2.07	1.91 2.10	1.87 2.15	1.82 2.22	1.76 2.32	1.68 2.48	1.57 2.76	0.65	0.65 0.65	0.64 0.66	0.64 0.66	0.64 0.66	0.64 0.67	0.63 0.68	0.62 0.69	0.61 0.70
1.7	1.67 1.74	1.65 1.75	1.63 1.77	1.61 1.80	1.57 1.85	1.53 1.92	1.46 2.03	1.39 2.21	0.6	0.60 0.60	0.60 0.61	0.59 0.61	0.59 0.61	0.59 0.61	0.58 0.62	0.57 0.63	0.56 0.64



☆このレンズは完全自動絞り付で、撮影の前後、常に絞りが開放となりファインダーは明るくなっています

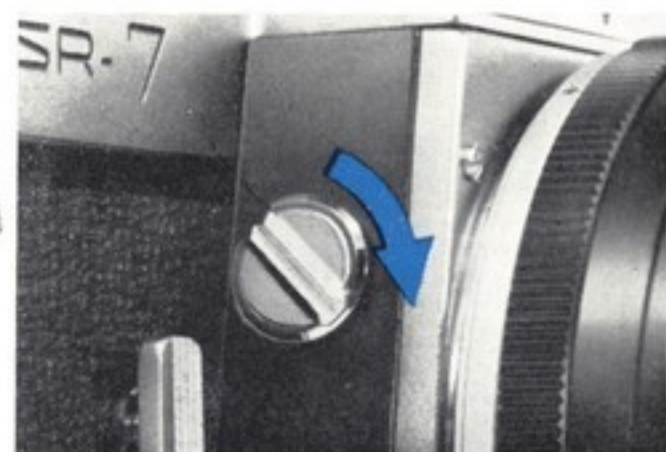
☆絞り効果が作画上いきているかどうかは絞りボタンを押下げるだけでたしかめることができます

オートロコール PF 55mm F1.8の被写界深度表

絞(F) 距離(m)	絞(F)							絞(F) 距離(m)	絞(F)						
	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16		1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	25.3 ∞	19.7 ∞	15.8 ∞	12.3 ∞	9.4 ∞	7.0 ∞	5.2 ∞	1.5	1.46 1.54	1.44 1.57	1.42 1.59	1.38 1.64	1.34 1.70	1.29 1.80	1.22 1.97
20	14.4 32.8	12.4 51.8	10.7 ∞	9.0 ∞	7.3 ∞	5.8 ∞	4.5 ∞	1.3	1.27 1.33	1.26 1.35	1.24 1.37	1.21 1.40	1.18 1.45	1.14 1.52	1.08 1.63
10	8.4 12.4	7.7 14.4	7.0 17.6	6.2 25.7	5.4 73.7	4.5 ∞	3.7 ∞	1.2	1.18 1.23	1.16 1.24	1.15 1.26	1.13 1.28	1.10 1.32	1.06 1.38	1.02 1.47
7	6.17 8.09	5.78 8.88	5.4 10.0	4.9 13.2	4.4 17.5	3.8 47.1	3.2 ∞	1.1	1.08 1.12	1.07 1.13	1.06 1.15	1.04 1.17	1.02 1.20	0.98 1.25	0.94 1.32
5	4.57 5.23	4.35 5.88	4.13 6.35	3.85 7.15	3.52 8.70	3.1 12.6	2.7 34.4	1	0.98 1.02	0.97 1.03	0.96 1.04	0.95 1.06	0.93 1.08	0.91 1.12	0.87 1.18
4	3.72 4.33	3.58 4.54	3.43 4.81	3.23 5.25	3.00 6.04	2.72 7.67	2.4 12.4	0.9	0.89 0.91	0.88 0.92	0.87 0.93	0.86 0.94	0.85 0.96	0.82 0.99	0.80 1.04
3	2.84 3.18	2.76 3.29	2.67 3.43	2.55 3.64	2.40 4.00	2.22 4.65	2.00 6.03	0.8	0.79 0.81	0.78 0.82	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.85	0.74 0.87	0.72 0.90
2.5	2.39 2.62	2.33 2.70	2.27 2.79	2.18 2.92	2.08 3.15	1.94 3.53	1.78 4.27	0.7	0.69 0.71	0.69 0.71	0.68 0.72	0.68 0.72	0.67 0.74	0.66 0.75	0.64 0.77
2	1.93 2.08	1.89 2.12	1.85 2.18	1.80 2.26	1.72 2.39	1.63 2.60	1.51 2.97	0.6	0.59 0.61	0.59 0.61	0.59 0.61	0.58 0.62	0.58 0.62	0.57 0.64	0.56 0.65
1.7	1.65 1.75	1.62 1.79	1.59 1.82	1.55 1.88	1.50 1.97	1.43 2.11	1.34 2.34	0.5	0.50 0.50	0.49 0.51	0.49 0.51	0.49 0.51	0.49 0.52	0.48 0.52	0.47 0.53



## ミラーロックボタンの扱い方



ミラーロックボタンは超広角21mmを使用するためのボタンです。写真のようにロックボタンを下側に止まるまで回すとミラーが上ったまゝの状態になります。そこで超広角のレンズを取付けて使用するとミラーは上ったまゝでシャッターのみ作動します。このときファインダーでは映像の確認ができないので、ピント合わせはレンズのスケール目盛を用い、ファインダーは接眼枠を利用して、専用の透視ファインダーを用います。ミラーを正規の位置にもどすにはロックボタンを上側に

止まるまで回すとミラーが降りてもとの状態にもどります

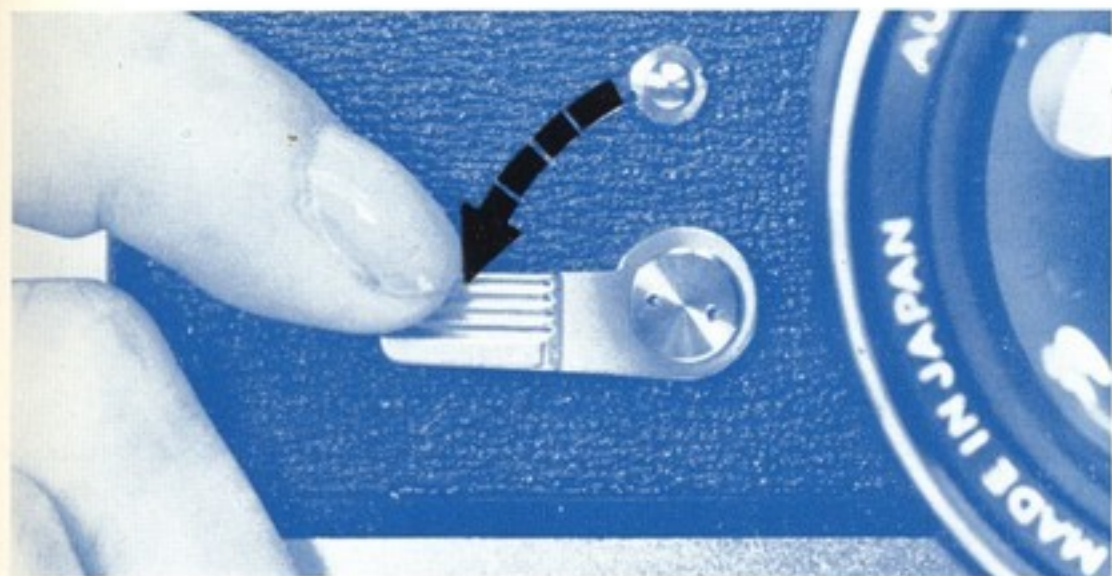
☆超広角レンズの着脱時には、レンズの後部がミラーその他にあたらぬようご注意ください。

☆専用ファインダーは、接眼枠の左右の溝に上部からはめ込みます

☆被写体を見なくても連続撮影のできる複写撮影や高倍率顕微鏡写真を撮るときなどに利用すると大変便利です



## セルフタイマーの使い方



セルフタイマーのレバーを倒すとセルフタイマーがチャージされます。レバーを倒す角度によって作動時間を調節できますが約45度以上レバーをチャージしないと作動しません

セルフタイマーの作動レバーを図の方向に約90度倒し始動ボタンを押すと、セルフタイマーが作動をはじめ約10秒後にシャッターが切れます（もちろん巻上げレバーを巻いてなければシャッターは切れません）

☆セルフタイマーのチャージはフィルム巻上げの前後いずれでもさしつかえありませんが、もし



フィルムを巻上げずにセルフを作動させたときは作動レバーが途中で止まります。この場合は巻上レバーを巻上げてから再びセルフの作動レバーを倒してご使用ください

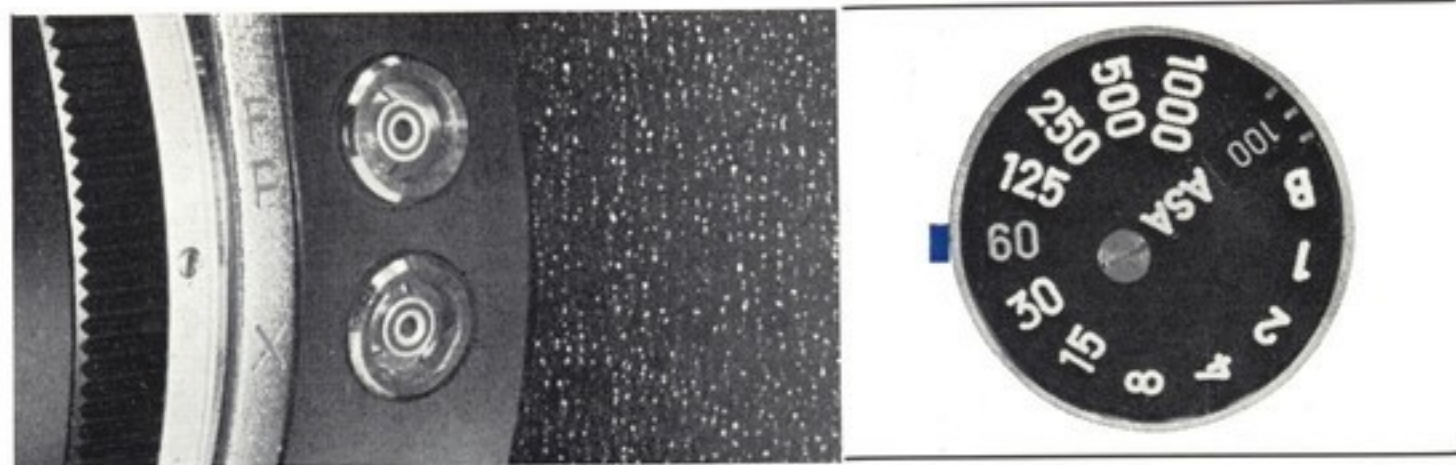
☆自分もいっしょに画面に写したい記念撮影や一人旅には絶対に必要な装置です

☆ゴルフ、野球、テニスなどスポーツのフォームを研究する場合にも重宝です

☆スローシャッターで手持撮影をする場合にも短かいセルフタイマーを利用してシャッターを切るとカメラブレを少なくすることができます

☆セルフタイマーをかけて後、始動ボタンのかわりに間違えてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーは作動せずに直ちにシャッターが切れますからご注意ください





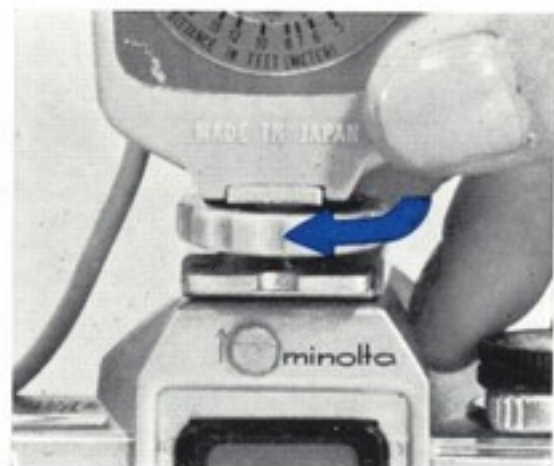
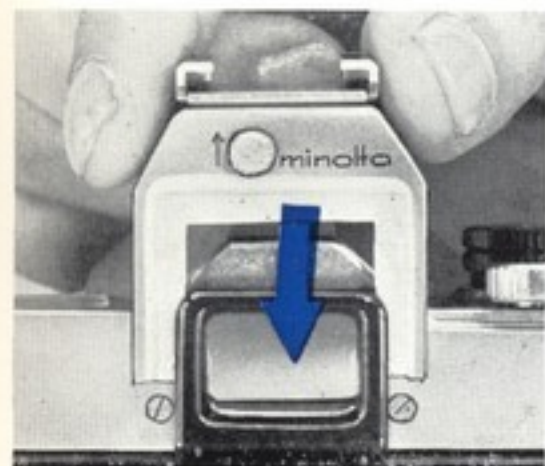
カメラのレンズ取付け部の向って右側面にFP (FP 閃光球用) とX (スピードライト用) 両接点の2つのターミナルがあります。FP級の閃光球を使う場合、スピードライト (ストロボ) を使う場合、発光器のプラグをそれぞれのターミナル

にさしこみます

シャッター速度はスピードライト (ストロボ) の場合はシャッター速度ダイヤルの赤い目盛60に合わせXターミナルを使用します。FP球の閃光球を使う場合は1秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までどのシャッター速度でも正確に同調発光しますが、ある程度明るい場所での動体撮影には $\frac{1}{60}$ 秒以上の高速度をお使いください

☆夜間やうす暗い所でのスナップや室内撮影などに使います

☆空、海、窓外を背景とした人物撮影や逆光撮影などの場合に陰影部の補助ライトとして使うと効果的です



### 発光器のとりつけ方

アクセサリクリップをファインダー接眼部の溝に上部からはめこみます  
 このときクリップの止め金具がカチリと音をたてファインダーに取付きます  
 発光器の足をアクセサリクリップに後方からさしこみ発光器のねじで固定します

### フラッシュ撮影組合わせ表

(斜線の部分が適当な速度)

接点	級	シャッター速度											
		B	1秒	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60(x)	1/125	1/250	1/500	1/1000
FP 接点	F P 球												
X 接点	F 球												
	M 球												
点	ストロボ												

☆各種閃光球の説明書には各種感光度のフィルムと種々のシャッター速度に応じたガイドナンバーがあります。フラッシュ撮影はこのガイドナンバーから適正露出を決定します

$$\text{被写体距離} \times \text{絞り値} = \text{ガイドナンバー}$$

この関係式からガイドナンバーを被写体距離で割った値が適正絞りとなります

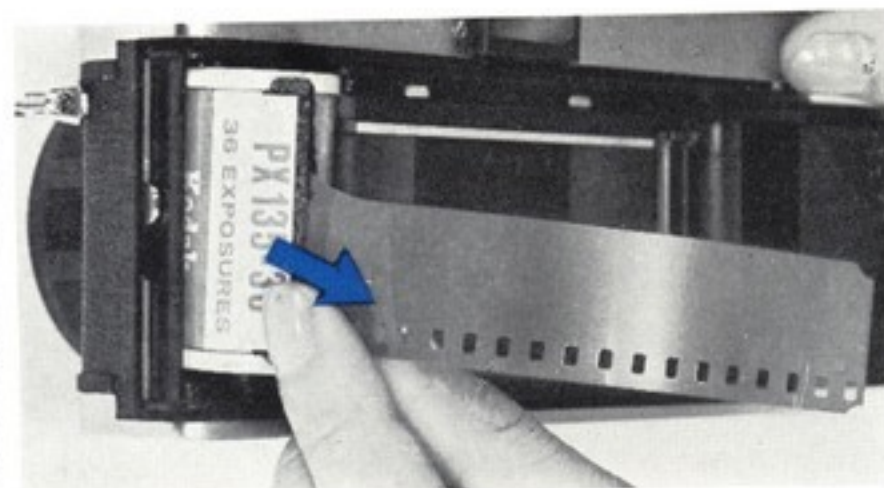
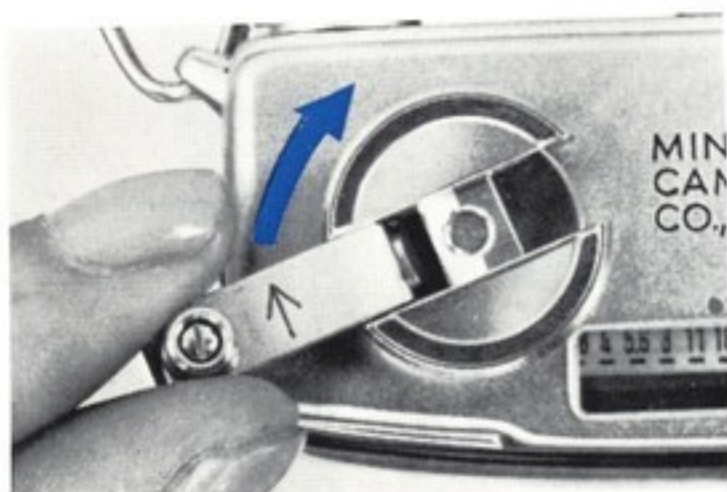
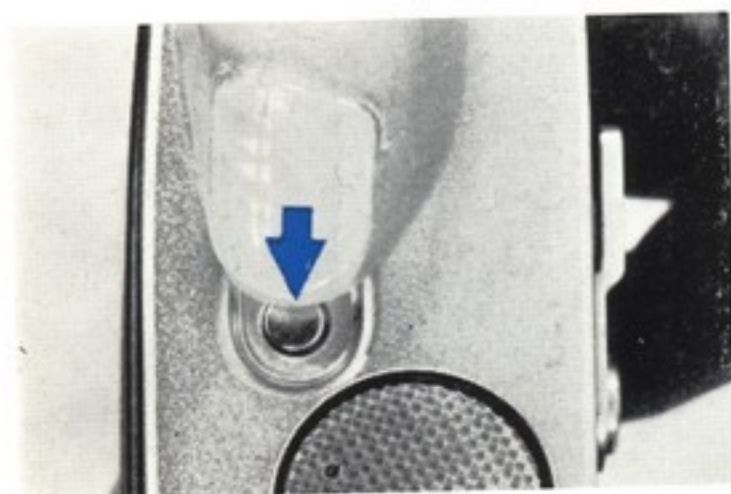
☆明るい場所で補助ライトとして使用するときは主光線の露出に従います

☆一眼レフはミラーがはね上っている瞬間にフラッシュが発光しますからファインダー視野が真っ暗で発光しなかったように感じますご注意ください

☆ベースレスの小型フラッシュバルブは光量が少ないのでなるべく 1/15 以下のスローシャッターを用いてください



## 撮影が終わったとき



フィルムを全部写し終わると巻上げレバーはそれ以上回わせなくなります。このときレバーを無理に回わすとフィルムがパトローネの軸からはずれて巻戻しができなくなりますから、フィルムが終わりに近づいたら巻上げにご注意ください。撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られています。巻戻してから裏蓋を開かないとフィルムが全部無駄になります

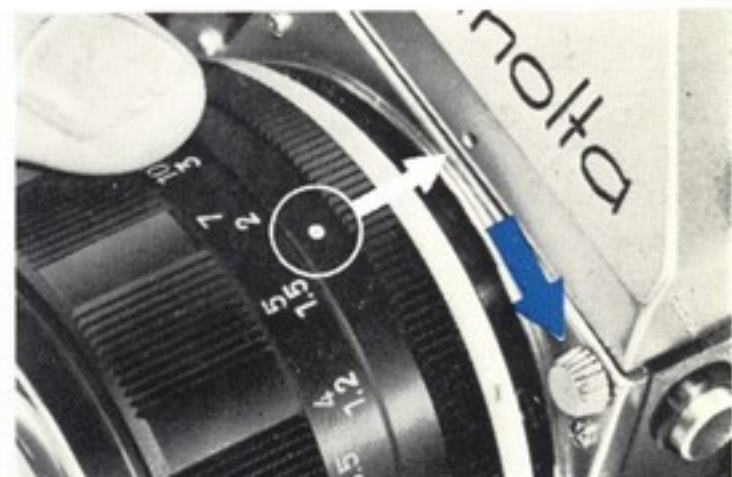
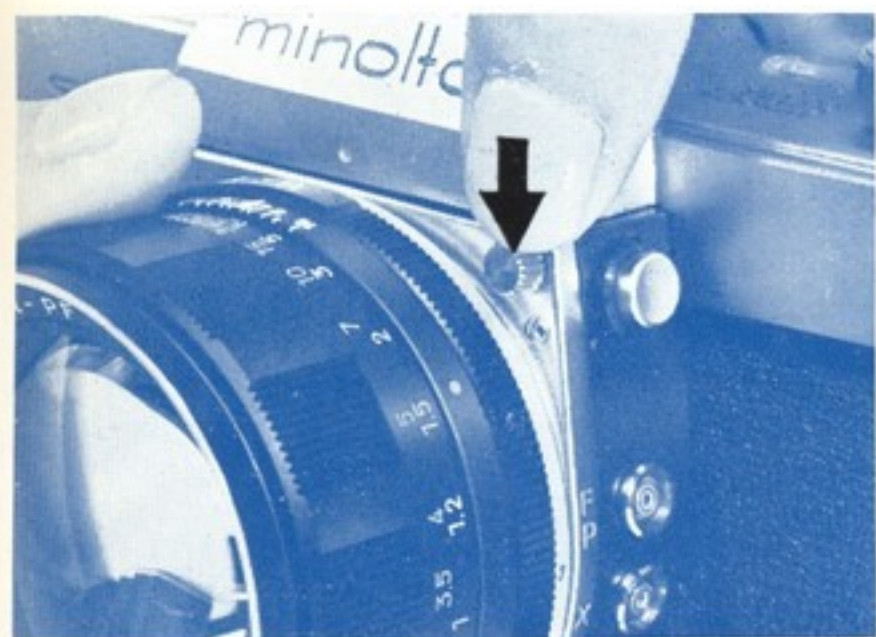
1. カメラの底部にあるフィルム巻戻しボタンを押込みます。(このボタンは指を離しても押込まれた状態のまま止まります) もし指を離したときボタンが元通り出てくる場合は、少し巻戻してボタンから手を離し一度フィルムを巻上げて再び巻戻しボタンを押すと押込まれた状態の

まゝになります

2. 巻戻しクランクを起こして矢印の方向に回すとフィルムは元のパトローネの中へ巻戻されていきます。最後にフィルムが巻取り軸のみぞから外れて急に巻戻しが軽くなるのが手ごたえでわかります。そこで巻戻しを止めます
  3. 巻戻しノブを引出して裏蓋を開け、パトローネのテレンプの右端とフィルムとを一緒に持ってカメラのフィルム受軸からパトローネを外すようにして、やゝ右側から先に取出します
- ☆フィルムは全部パトローネの中へ巻込まないようにはしてください。(パトローネによってはフィルムの出口から多少光がはいることもあります)



## レンズ交換はこうして



### レンズを外すとき

レンズ交換用ボタンを写真のように下方に少し押しながらレンズ鏡胴の基部を持って時計の針とは逆の方向に約 $\frac{1}{8}$ 回転ほど回し外側に引くとレンズがはずれます

### レンズを取付けるとき

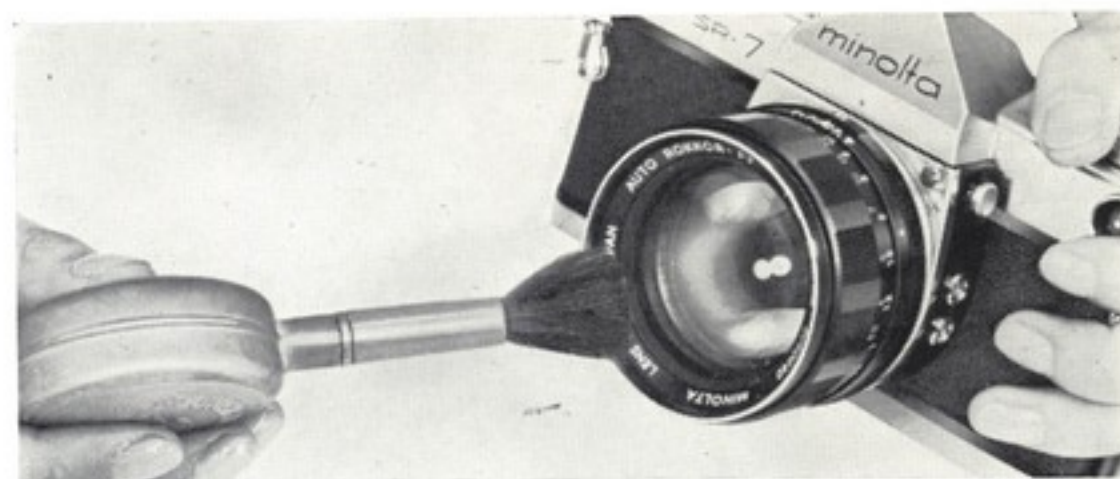
レンズ鏡胴の赤点とカメラの前板の赤点を合わせるようにしてレンズを差しこみます。ついでカメラのレンズ座金とレンズを密着させて鏡胴を時計の針の方向に約 $\frac{1}{8}$ 回転回すとカチリと止まります

☆迅速確実にレンズ交換ができますから忙しいスナップの時や長い望遠レンズ、蛇腹装置に使うときに便利です

☆レンズ交換はフィルム巻上げ前後、いずれでもさしつかえありません

☆専用レンズ以外の交換レンズを使用する時には各種アダプター（ライカマウント・エクザクタマウント）が用意されています





カメラを海辺や風の強い日に使った場合、あなたの気付かない内に塩分やほこりをかぶり、放っておくとレンズ焼けや腐蝕の原因となりますからふだんの手入れが長もちさせるための大事な秘訣です。あなたのお供としてカメラをながくご愛用いたゞくため次のことに注意しましょう

### 使用後の手入れ

レンズに手を触れないよう気を付けるのは勿論ですが、もし誤って汚した場合、ゴム球のブローアールでゴミやホコリを吹きとばしよく洗った木綿の布を指先に巻き、先端にちよっとしめる程度のアルコールとエーテルの混合液（大体アルコール6にエーテル4の割合）をつけ、レンズの中心から

外側にうづまきを描くように軽く静かに拭きとります。強く拭くとかえってレンズにキズがついたりしますからご注意ください

☆レンズはなるべく汚さないように心掛け軽くハケで払う程度で余り神経質に度々拭かない方がよいのです

☆ミラーはさわらぬようご注意ください。清掃は柔かいハケで軽くホコリを払う程度にしましょう

☆梨地クローム面が余り汚れたときは布にベンジンを少しつけて拭くときれいになります。このとき内部にしみ込まぬようご注意ください

### 保存上の注意

- ☆カメラをしまうときは距離目盛を∞にしてレンズを引っ込めてからケースの蓋をしましょう
- ☆カメラをしまうときはなるべくシャッターを切っておきましょう
- ☆カメラに衝撃を与えることは禁物です。レンズの精度を悪くし、又ペンタプリズムの角を傷めることがあります
- ☆カメラを保存するには高温、湿気や塩分多量の薬品のある場所に放置するのはさけてください。特に零下10度よりも冷たい場所や40度以上の暑いところではシャッターに悪影響を与えることがありますからご注意ください

- ☆長期間お使いにならない時は水銀電池を外しておいた方が安全です
- ☆カメラの万全をはかるには缶か乾燥器の中にシリカゲル等の乾燥剤と共に入れるとより安全です
- ☆誤って海水に落とした場合直ちに清水で洗い、きれいな乾いた布で拭きとって、もよりのサービス・ステーションにお届けください。日がたつと各部が腐蝕して修理不能となることもあります





SRはレンズ交換によるなんらの制約を受けることもなく、優れたファインダーシステムによってどんなレンズを使ってもファインダーで見る被写体を100%近いフルサイズでキャッチします。ですから撮影意図に応じて迅速にレンズやアングルを変えることができます

特にSRはレンズ交換を考えて数々の優れた性能をそなえていますので一種類のレンズのみでは大変不経済でカメラを眠らせているようなものです

### 豊富に用意されたロッドールレンズ

SRにはあらゆる撮影意図に応じられるよう21mm~1000mmまで20余種類の交換レンズが用意されています。特にロッドール交換レンズは最新の光学理論とミノルタが誇る他社にない光学ガラスの溶解による完全な一環作業によって優れた品質のレンズを生産しています

比類のないアクロマチックコーティング、総合性能が優れた描写力、シャープさに加えた美しいボケ味等、すばらしいレンズ性能は世界のカメラファンから賞賛されています

## NEW SR 用交換レンズ

NEW SR には従来のレンズが全部共用できますが SR の愛用家増大に応じて次のようなレンズシステムを用意しました

### 1. 標準レンズ

大口径レンズ F 1.4/58mm 新発売  
標準レンズ F 1.8/55mm 〃

### 2. 交換レンズ

#### A. SR 愛好者の基本としてぜひおすすめしたいレンズ

広角レンズ F 2.8/ 35mm 新発売  
望遠レンズ F 2.8/135mm 〃  
超望遠レンズ F 3.5/200mm  
ポートレート用 F 3.5/100mm 新発売  
F 2 /100mm

#### B. 特殊目的の撮影用

○一眼レフの限界の広角 F 3.5/28mm  
○超広角 F 4 /21mm

#### C. 普及価格で高性能なレンズを望まれる方に

広 角 F 4 / 35mm 新発売  
携帯用レンズ F 2.8/ 45mm  
望 遠 F 4 /135mm  
超 望 遠 F 5 /200mm  
超 望 遠 F 5.6/300mm 新発売

(その他 F 4/100mm もあります)

#### D. 撮影に便利なズームレンズ

F 3.5/50~100mm

F 3.5/80~160mm

(もっとも使用域の広いレンズ)

F 8/160~500mm

F 5.6/100~200mm 新発売

(ピント合わせとズーミングが迅速にできる特長をもっています)



## E. その他

接写・複写及び遠景も含めた一般撮影  
に利用できる

マクロレンズ F3.5/50mm

動植物の生態撮影の他望遠レンズにも  
使える蛇腹用レンズ F 4 / 135mm

☆超望遠レンズ F 5.6/ 600mm

F 6.3/1000mm 新発売



# レンズ一覧表

レンズの種別	画角	フィルターねじ径		最短撮影距離 cm	大きさ 最大径×全長 (mm)	重量		絞り方式	レンズ構成	その他
		S	C mm			S	C			
超広角 F 4 / 21mm	92°	55		90	60φ×20	166g		等間隔クリックストップ	4群 8枚	ミラーを跳上げて使う 一眼レフ限界の 超広角レンズ
F3.5/ 28	76°	67		60	70φ×50	345		完全自動絞り	7 7	
広角 F 4 / 35	64°	55	52☆	40	60φ×33	210	182	ハンドプリセット絞り	4 5	軽量小型
F2.8/ 35	64°	55	52☆	40	60φ×45	290	205	完全自動絞り	6 7	
準広角 F2.8/ 45	53°	46		90	64φ×17	130		"	3 4	軽量小型
標準 F1.8/ 55	43°	55	52☆	50	60φ×35	280	210	"	5 6	軽量小型
F1.4/ 58	41°	55	55☆	60	62φ×40	320	265	"	5 6	
望遠 F 4 /100	24°	46		120	56φ×80	240		ハンドプリセット絞り	3 3	軽量小型
F3.5/100	24°	55	52☆	120	60φ×54	310	235	完全自動絞り	4 5	
F 2 /100	24°	62		120	66φ×63.5	425		"	5 6	軽量小型
F 4 /135	18°	46		150	56φ×115	375		ハンドプリセット絞り	3 3	
F2.8/135	18°	55	55☆	150	60φ×93	530	417	完全自動絞り	5 6	"
F 5 /200	12°	52		250	56φ×149	430		ハンドプリセット絞り	4 5	
F3.5/200	12°	67		250	70φ×138	770		完全自動絞り	4 6	軽量小型
F5.6/300	8°	62	☆	450	65φ×197	545		ハンドプリセット絞り	4 4	
F4.5/300	8°	77		450	80φ×250	1,020		"	4 4	"
F5.6/600	4°	126		1000	132φ×530	4,700		"	3 4	
F6.3/1000	2°30'	49	☆	3000	217φ×450	10.6k		フィルターによる 光量調節方式		フード付 反射望遠式
ズーム F3.5/ 50~100	46°→24°	77		200	82φ×126	860		完全自動絞り	9 15	光学補正式
F3.5/ 80~160	30°→15°	77		250	84φ×206	1,350		"	10 15	
F5.6/100~200	24°→12°	52	☆	200	58φ×175	535		ハンドプリセット絞り	5 8	
F 8 /160~500	15°→5°	77		450	87φ×490	2,770		完全自動絞り	11 16	
マクロ F3.5/ 50	45°	55		23	63φ×54	260		ハンドプリセット絞り	4 6	近接・拡大撮影用 蛇腹装置と組合 わせて使う
蛇腹用 F 4 /135	18°	46		46	56φ×55	200		"	3 3	

☆印は近日発売

標準広角レンズのフードはケース付で別に販売

Sはスタンダードレンズ Cはコンパクトレンズ



## 撮影範囲を増大するSR専用アクセサリ

SRには豊富な専用アクセサリが用意されています。一般撮影・医学・教育用の科学写真など、あらゆる分野の撮影に活用していただくことと使用分野を非常に増大いたします



### “みんなが楽しめる近接撮影”

近接撮影ほど楽しいものはありません  
一眼レフのファインダーはどんなに接近してもパララックスが起こらず、しかも被写界深度が直接見られますから近接撮影・複写・顕微鏡写真の撮影には理想的なカメラです

#### A) クローズアップレンズ

SRでは55mmの標準レンズのみでもB5判（週刊誌の大きさ）位の大きさなら接写できます。しかし更に接近して写したいときには、クローズアップレンズや中間リングを必要とします。クローズアップレンズはレンズの自動絞り機構が、そのまま使えますので花にとまった虫などもっとも気軽に接写が楽しめます。SR専用のクローズアップレンズはレンズの性能に合わせて近接時の性能が低下しないよう特別に設計されています。クローズアップレンズはNo.-1、No.-2の2種類を用意しており55mm標準レンズでNo.-1で約0.1倍～0.25倍、No.-2で約0.2倍～0.3倍の接写が可能です

No. 1, No. 2 各 ¥ 1,750



### B) 中間リングセット

クローズアップレンズで写す範囲より更に接近して撮影倍率が高い被写体のときには中間リングを用います。SR用中間リングはNo.1~No.5まで各種ありカメラのボデーとレンズの間にバヨネットで簡単に取付けられ写真の複製、昆虫の標本等の複写にとっても便利です。標準レンズで撮影倍数0.14から連続的に1.4倍まで写せます、中間リングを増せば更に大きく拡大できます

中間リング (五枚セット) ¥ 2,500

### C) 複写台

書類や写真等の複写をするとき、専用の複写台を利用すると、もっとも正確に能率よく複写ができます。中間リングや蛇腹装置を併用して非常に小さい被写体の接写、拡大撮影、顕微鏡写真の撮影などの安定台など多くの目的に用いられます。ミノルタ複写台はもち運びに便利なよう組立式になっており簡単に組立てることができます。☆複写台の位置が高いときアングルファインダーを利用すると便利です

¥ 7,500





#### D) 蛇腹装置 I 型

小さい被写体の超接写又は拡大撮影をしたいときは蛇腹装置を使うと便利です

I型は携帯に便利なよう蛇腹装置とその支柱がおりたゝめるようになっています。蛇腹をくりだすと55mmのレンズで接写倍率0.8~2.4倍まで連続的に近接撮影ができます

¥ 5,000

#### 蛇腹装置 II 型

I型よりデラックス型で接写倍率が55mmのレンズで1.0~3.2倍まで連続的に近接撮影ができ更

に白黒、カラースライドからの再複写等のできるスライド複写装置を備えています

¥ 9,500

☆近接撮影には丈夫な三脚を使用しケーブルレリーズを使うなどカメラブレに十分注意します

☆上から見られるアングルファインダーや、精密焦点調節用マグニファイヤーを利用すると便利です

☆中間リング、蛇腹装置を利用して近接撮影するときは露出を増加させねばなりません。くわしくはこれらの使用説明書をご請求ください

☆文献複写、拡大撮影にはマクロレンズを、野外で動植物の接写されるとき蛇腹用レンズをお使いくだされば更にシャープな写真が撮れることをお約束します

### 接 写 用 具 一 覧 表

接 写 用 具	55mm標準レンズでの撮影倍率	主たる撮影目的	価 格
クローズアップレンズ No. 1	0.11~0.25	} 手軽で比較的倍率の小さい接写	} 各¥1,750
クローズアップレンズ No. 2	0.2 ~0.3		
中間リングセット	0.14~1.4	一 般 接 写	¥ 2,500
蛇 腹 装 置 I 型	0.8 ~2.4	携 帯 用 で 超 接 写	¥ 5,000
蛇 腹 装 置 II 型	1.0 ~3.2	超 接 写 と ス ラ イ ド 複 写	¥ 9,500
マクロロッド F3.5/50mm	$\infty$ ~0.5	} 文 献 複 写 } 風 景 から 接 写 まで	} ¥18,500
マクロ専用中間リング	0.5 ~1.0		
ロッド TC 蛇腹用レンズ F4/135mm	$\infty$ ~1.1	蛇腹にとりつけると望遠レンズで風景から接写まで	¥ 8,100





すっきりした写真を撮るには



### ◎レンズフード

レンズに入射する不必要な有害光線を除きスッキリした映像を作るために各レンズの画角に適合した専用レンズフードを標準レンズから広角望遠まで各種レンズ専用に完備しています  
特にフードはフラッシュ撮影にぜひ必要なものです  
尚 100 mm 以上のレンズはフード付で発売しています。

F3.5/28mm	¥ 1,200	(ケース付)
F2.8/35mm	兼用 ¥ 1,500	(ケース付)
F4 /35mm		
F1.8/55mm	I型 ¥ 900	(ケース付)
F1.4/58mm		



### ◎フィルター

フィルターは被写体の色合いを肉眼で見た感じと同じ濃淡に表現したりある特定の色彩のみ強調する時に使用するもので四季を通じて欠くことのできぬものです

SRには性能の良いミノルタ専用フィルターをご使用ください



### ○偏光フィルター

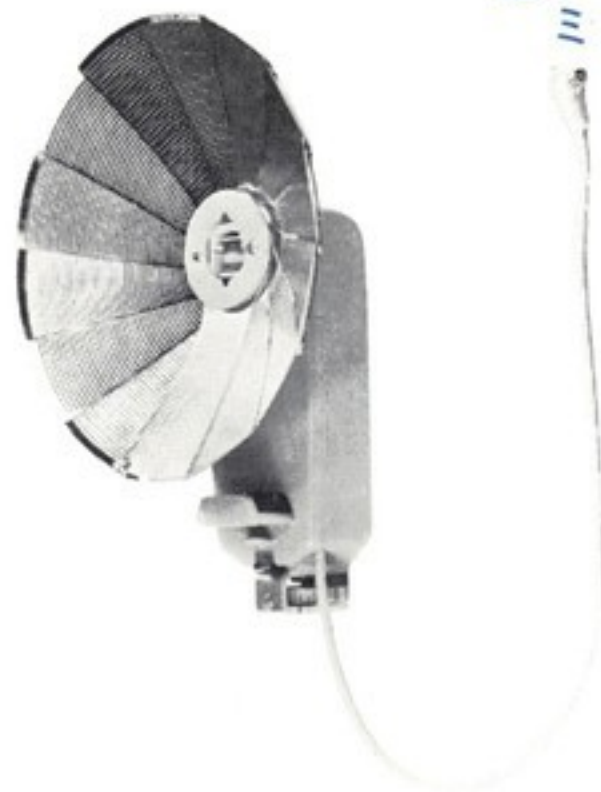
偏光フィルターは水面、ガラスその他金属面等からの反射光や青空からの光で偏光状態になっている光を適度に調節するのでガラス、水等を透して中のものを明瞭に写します。又カラー撮影ではカラーバランスを変えずに青空の調子だけを適当に調節できます

SRはファインダーを通して被写体の反射光をもっとも適当な状態にしてシャッターを切ることができるので便利です

F2.8/35mm	} 兼用	¥ 3,000
F4 /35mm		
F1.8/55mm		
F1.4/58mm	¥ 3,000	
その他ねじ径55mmの広角用 ¥ 4,000		

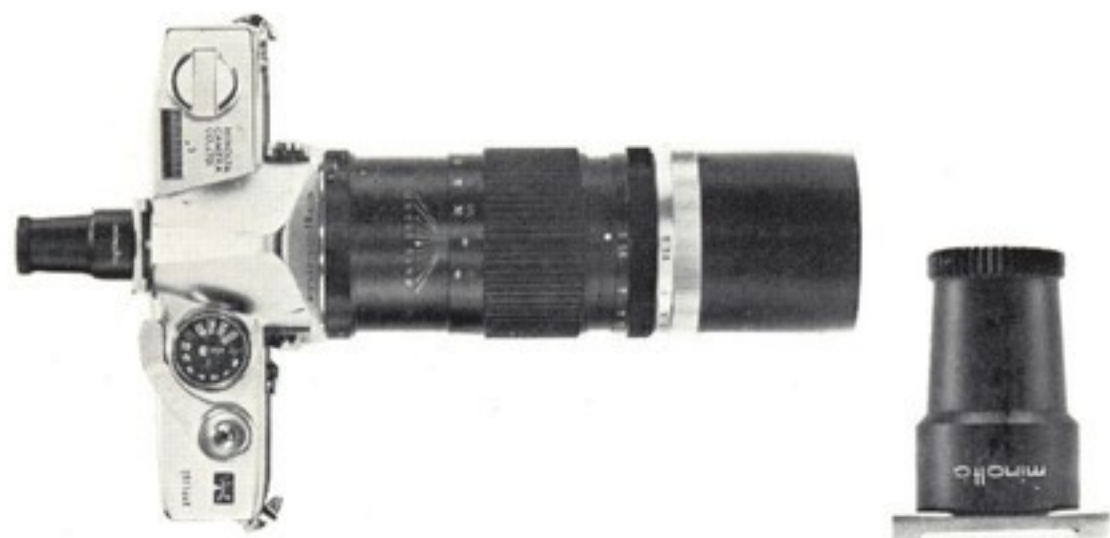


○アクセサリークリップV  
SR用アクセサリを使用したいとき接眼枠の左右の溝に上部からはめ込みます  
¥ 300



○フラッシュ撮影に  
ミノルタデラックス発光器  
折りたゝみ式の反射笠をひろげると、そのままフラッシュが使用でき、折りたゝめばポケットにスッポリ入る手軽さです。フラッシュ撮影の露出計算盤もついています  
¥ 1,400





### ○マグニファイヤーV

ファインダーの映像を拡大して見るルーペです  
ファインダー接眼枠に取りつけて使用するとより  
いっそう精密にピント合わせができますので接写  
複写などに用いると便利です

¥ 2,200 (ケース付)



《ファインダーを見やすくするために》

### ○アングルファインダーV

眼高の位置から胸高位置にしてファインダーを  
見たいときに用いるアタッチメントです

特に NEW SR 用は世界で最初にダハプリズム  
を用いており左右正立像になっているのが特長で  
従来のものよりはるかに見やすく構図が決められ  
ます。二眼レフのような胸高の撮影や、ローア  
ングルの撮影、横向き、後向きの撮影に便利なほか  
複写台を利用する時とか顕微鏡写真の撮影に用い  
ると大変便利です

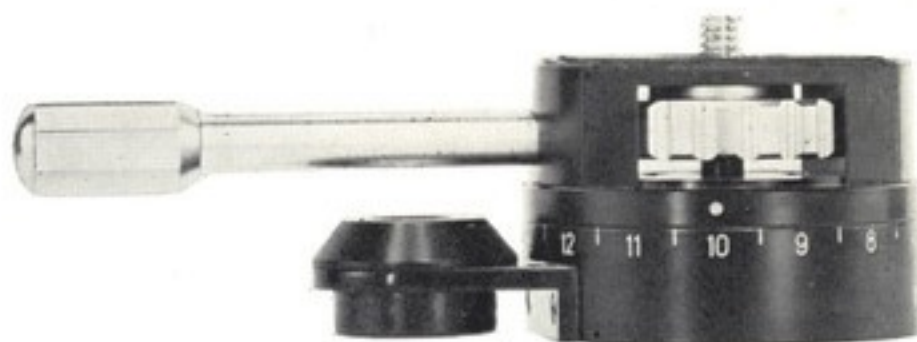
¥ 5,000 (ケース付)



#### ○視度調整アタッチメントV

老眼の方にもピント合わせが楽にできるアタッチメントで、カメラの接眼枠にとりつけます  
(+0.5から+3ディオプターまでの5種類を用意しています)

老眼の度合に応じて各カメラ店でおえらびください  
各 ¥ 350



#### 《パノラマ撮影に》

#### ○SR用パノラマヘッド

広い被写体を一枚の写真にまとめたい場合に使用します

このパノラマヘッドは1枚撮影するたびに少しずつカメラの角度を変えて360°まわりの被写体を撮影することができます。撮影後写真をつなぎ合わせると、すばらしいパノラマ写真ができます

¥ 2,500





### 《顕微鏡写真の撮影に》

#### ○顕微鏡アダプター

このアダプターはカメラと顕微鏡の間を連結して被検物をファインダーで見ながら簡単に顕微鏡写真の撮影ができるアダプターです

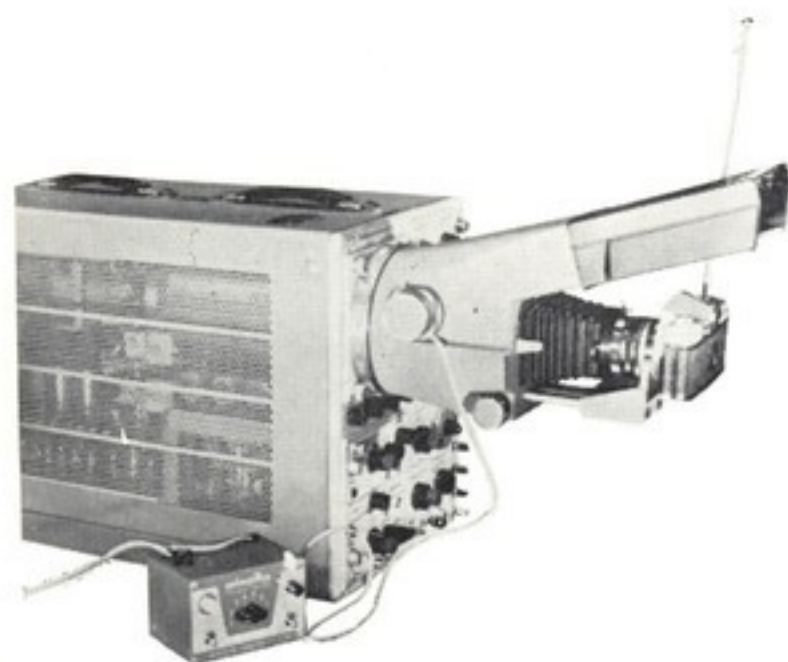
II型 ¥ 3,300



#### ○万能顕微鏡写真撮影装置

SR専用の顕微鏡写真撮影装置です。防震、カメラ長の自由調整（撮影倍率の変更）精密なファインダー、高感度露出計など、顕微鏡写真に必要なすべての装置をそなえた万能装置で、学術研究犯罪捜査などあらゆる顕微鏡写真の撮影に好適です

¥ 147,000



《電気波型の撮撮に》

○フォトオシロスコープ撮影装置Ⅱ型

学術工業生産にブラウン管オシロスコープの使用が急増してまいりました。ミノルタSR専用のオシロスコープ撮影装置を用いますと電気波形の忠実な記録により、一段と精密な観測および測定に役立ちます

特にファインダーフードが大きくて観測しやすいこと、独得のデータ記録装置が特長です

本 体 ¥33,000  
レギュレーター ¥ 3,500



ライカマウントアダプター エキザクタマウントアダプター

○ライカマウントアダプター

ライカ用のレンズをSRに使用する時のアダプターです（このアダプターを用いた時は一眼レフの機構上、ライカ用レンズを使用する時は近接撮影だけになります）

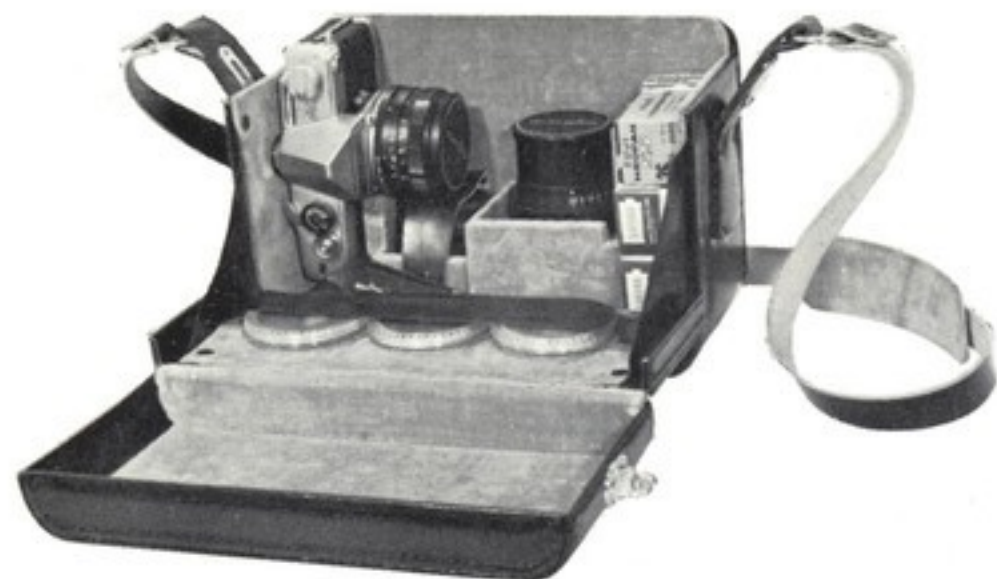
¥ 600

○エキザクタマウントアダプター

エキザクタ用レンズをSRに使用するためのアダプターで、エキザクタのレンズが無限遠から近距離まで使えます

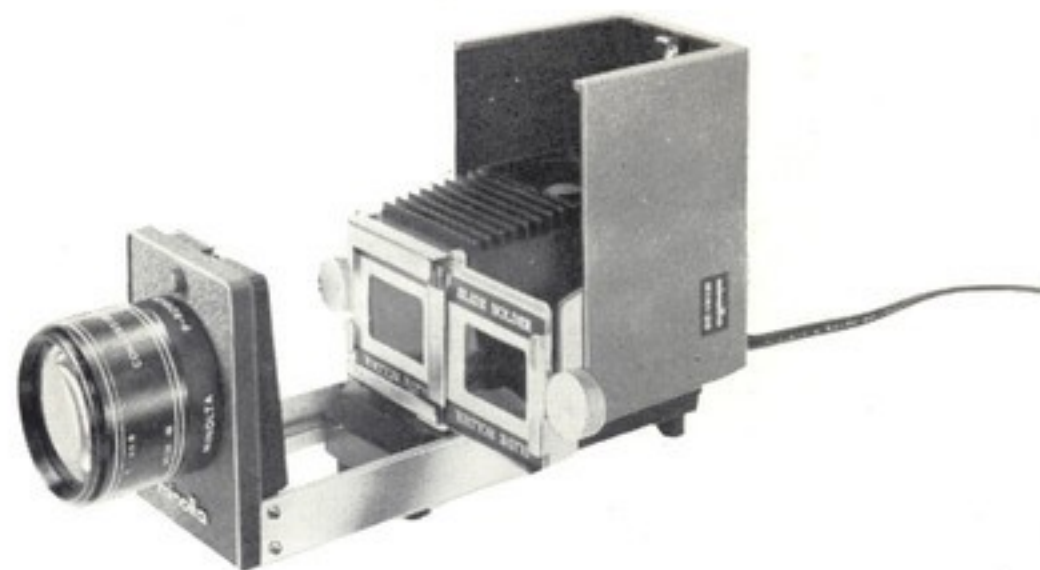
¥ 1,000





○ギャゼットバッグ ¥ 8,000  
SR1台と交換レンズ（広角・望遠）各1本  
SRのボディ1台、フィルター・フィルムが  
収納できます

○レリーズ	¥ 250
○速写ケース（ソフト）	¥ 2,500
○レンズキャップ（標準）	¥ 200
○後キャップ	¥ 50
○ボディキャップ	¥ 50
○ネックストラップ	¥ 380



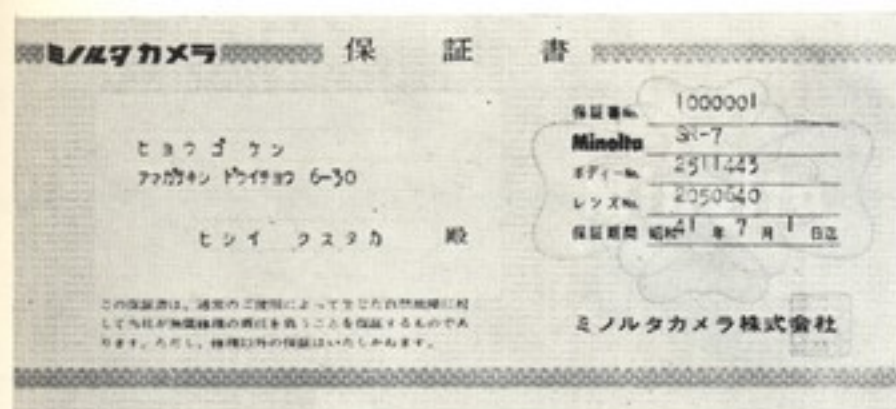
#### 《ミノルタミニ35Ⅱプロジェクター》

一家揃ってのカラー写真を楽しむには勿論、工場、学校などの説明用にミノルタミニ35Ⅱプロジェクターをおすすめします

ミノルタミニは持運びに便利な小型スライドです。特に非球面コンデンサーを使用してコンデンサー系の収差を補正し、照度ムラもなく画面が非常に明るくなっています

その上コンバージョンレンズがつきますので広い部屋でも狭い部屋でも大きな画面に映写できます

本	体	¥ 4,900
コンバージョンレンズ		¥ 2,300



### 《一カ年品質保証》

カメラの化粧箱の中に入っている愛用者カードは、所要事項をご記入のうえ、大阪本社業務課宛お送りいただきますと、あなたのカメラは当社の台帖に記載され、折返し一カ年の保証証書をお送りいたします。修理の時や、今後のあなたとの通信連絡、あるいは万一の盗難の時にも役立ちます（愛用者カードは10日以内にお送りください）

### 《完ぺきなアフターサービス》

万一故障の場合は直接大阪本社或いは当社の各サービスステーションへご相談または、カメラをお送りください。すばやくお手許へお届けします  
故障と思われるような事故がおきたときは、なるだけその場合の原因がわかりやすいと考えられる資料をお送り願います。例えば、撮影フィルムの場合は、その原因のわかりやすい撮影フィルムをお送りください。又その他の外的原因の場合はこうしたときに不具合となると云う手順を解りやすく説明してください。ご面倒でも上記の手続をしていたゞいた方が、迅速に完全な修理ができます



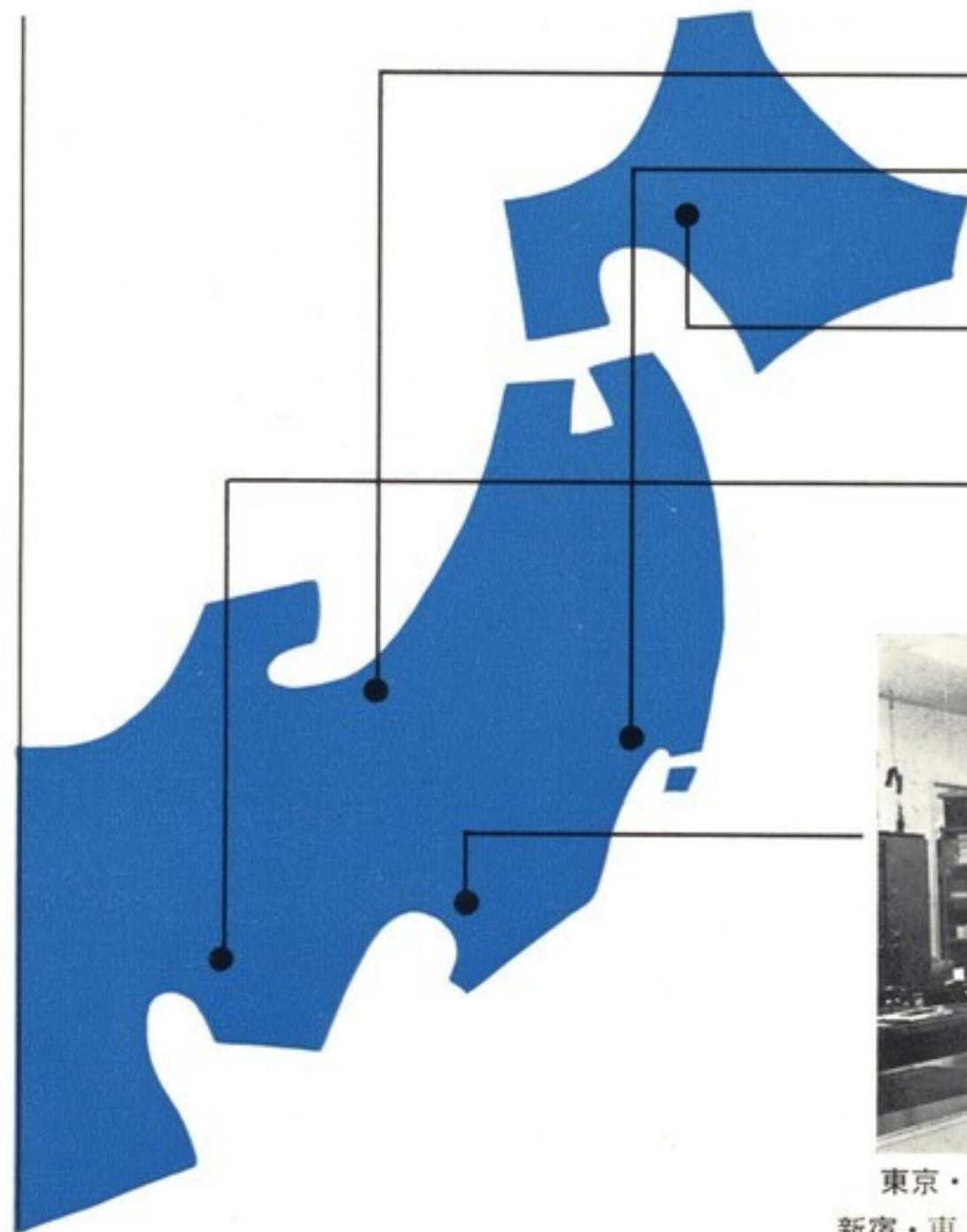
## 各地サービス・ステーション

当社のサービス・ステーションは次のところにあります。各サービス・ステーションにはカメラ及び付属品を展示しており、カメラの専門家が色々のご相談に応じます

又カメラの修理をはじめミノルタカメラ一切のアフターサービスをいたしております

その他ミノルタカメラのカタログも豊富に用意しております

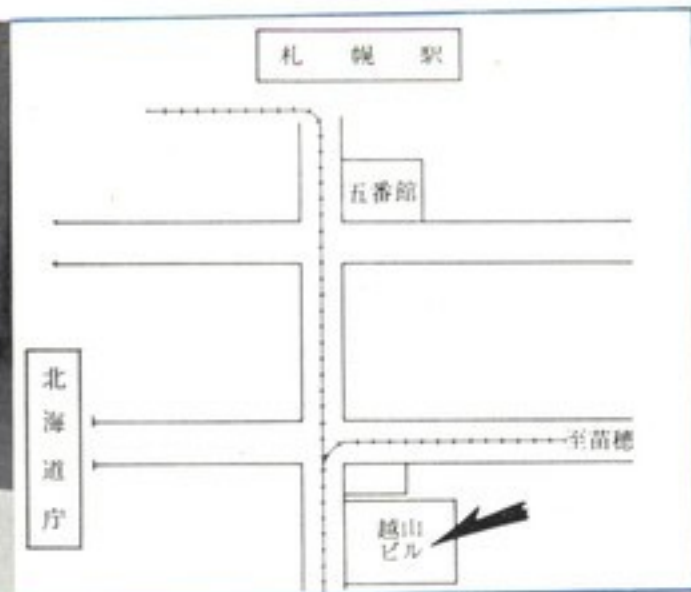
お手紙またはお電話でご遠慮なくお申しつけください



東京・東京都中央区銀座東6-7 木挽館新館 TEL(542)1261  
新宿・東京都新宿区角筈1-1 TEL(352)6552  
新宿ステーションビル

仙台・仙台市勾当台通8 熱海ビル TEL (23) 8783

新潟・新潟市東大通1-23 マルタケビル TEL (4) 3026

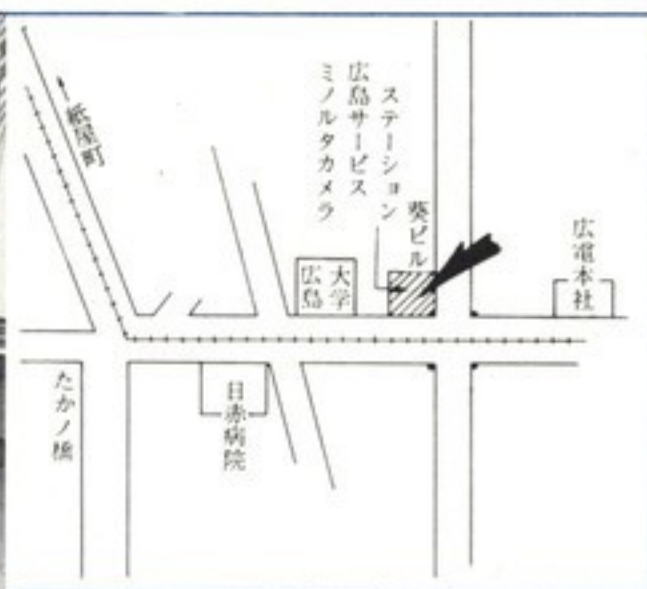


札幌・札幌市北二条西3-1 越山ビル TEL (25) 9681



名古屋・名古屋市中区広小路通り4-8 名神ビル TEL (22) 8761





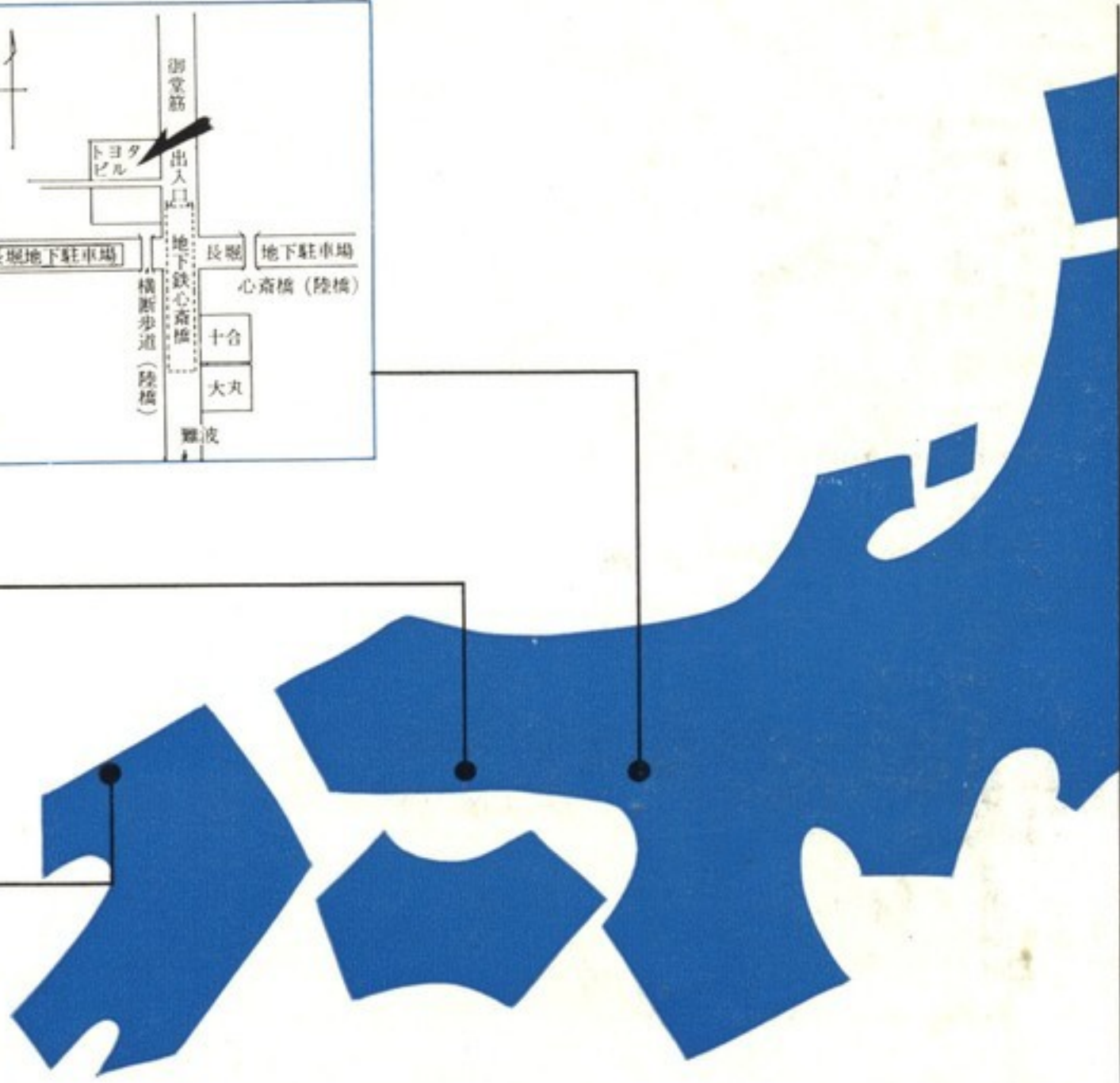
広島・広島市千田町1丁目3-13 葵ビル TEL (41) 1404



九州・福岡市大浜町3-25 迎陽ビル TEL (2) 3756



大阪・大阪市南区塩町通4-18 トヨタビル TEL(271)8671





# Minolta

ミノルタカメラ株式会社

大阪:大阪市南区塩町通り4の18 TEL(271)8671

東京:東京都中央区銀座東6の7 TEL(542)1261